

CSRレポート2014

環境・社会活動レポート



株式会社 エフピコ

CONTENTS

目次／編集方針	1
ごあいさつ	2

会社概要 (P.3 ~ P.8)

企業プロフィール／主要な経営指標	4
組織およびグループ会社紹介	5
製品紹介：日本の食文化を支えている エフピコグループ製品	7

経営における取り組み (P.9 ~ P.14)

コーポレートガバナンス	10
コンプライアンスとリスク管理	11
会長 小松安弘 旭日重光章を受章	13

環境における取り組み (P.15 ~ P.42)

エコ・ファースト制度／エコマークアワード／ 容器包装3R推進環境大臣賞	16
エフピコ・エコアクション50 (FPEA-50)の 進捗状況報告	17
環境活動意見交換会「市民団体の皆様と 共に歩むエフピコ方式のリサイクル」	19
製品開発における取り組み	23
工場における取り組み	25
物流における取り組み	27
販売活動における取り組み	29
オフィスにおける取り組み	30
エフピコ方式リサイクル	31
工場見学の受け入れ	40
環境負荷の全体像	41

社会における取り組み (P.43 ~ P.55)

社長対談「障がい者の自立と社会参加」	45
株主とのかかわり	49
消費者とのかかわり	50
お客様とのかかわり	51
障がい者の雇用	53
従業員とのかかわり	55
エフピコのあゆみ	56
編集後記	58

編集方針

この「CSR Report 2014」は、エフピコの2013年4月から2014年3月までの環境および社会活動における取り組みをまとめたもので、以下の方針に沿って編集しています。

■ エフピコらしさを皆さまにご理解いただけるよう、各活動の実績、これからエフピコが目指す方向性を明確に記載するよう心がけました。

■ レポートの作成にあたっては、環境省の「環境報告ガイドライン(2012年度版)」を参考にしました。

■ 対象期間：2013年4月1日～2014年3月31日

■ 対象範囲：株式会社エフピコ、およびエフピコグループ

ごあいさつ

エフピコの実環境・社会活動レポートをお手にいただき、誠にありがとうございます。このレポートは簡易食品容器の製造・販売を行う私たちの会社について、また社会との繋がりについてまとめております。エフピコは食品容器の製造メーカーであり、スーパーマーケットなどの食品流通に携わる店舗にさまざまな商品をお届けする物流業者でもあり、使用済み食品容器やPETボトルをリサイクルする環境先進企業でもあります。また、たくさんの障がい者に雇用の機会を提供する企業としての顔もあります。さまざまな顔をもつエフピコの企業プロフィールを本レポートを通して感じていただければ幸いです。ページのどこかに、この小冊子を手にとった皆様一人ひとりとの接点があるかもしれません。どうぞ最後までご覧ください。

代表取締役社長兼最高執行責任者

佐藤 守正





会社概要

エフピコの製造・物流・販売・リサイクルは一元管理のもと、無駄を排除した効率性重視のシステムで行われています。



簡易食品容器の製造・物流・販売・リサイクルを通して社会に貢献するエフピコの姿をご覧ください。

エコトレー



食品トレーとして最新の機能を持つだけでなく、環境に配慮したリサイクル素材から生まれたエコトレーは、1992年に販売を開始しました。以来、エコトレーはエフピコを象徴する商品のひとつとして皆さまのお役に立ち続けています。

本社



東京本社

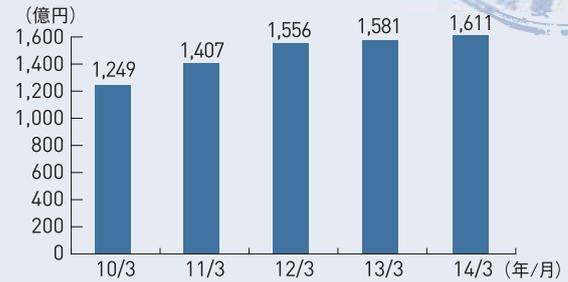


❖ 企業プロフィール

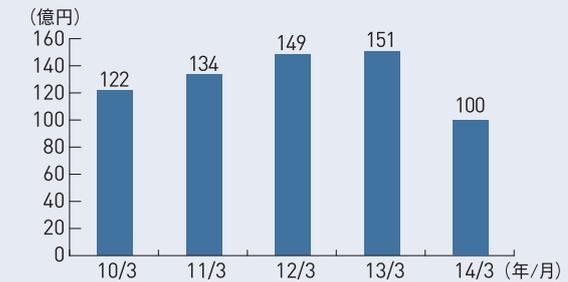
商号 株式会社エフピコ
 設立 1962年(昭和37年)7月
 代表者 代表取締役会長兼最高経営責任者(CEO)
 小松 安弘
 代表取締役社長兼最高執行責任者(COO)
 佐藤 守正
 資本金 131億5,000万円
 社員数 746名(エフピコグループ:4,032名)
 事業内容 ポリスチレンペーパーおよびその他の
 合成樹脂製簡易食品容器の製造・販売並びに
 関連包装資材等の販売
 本社 〒721-8607 広島県福山市曙町一丁目12番15号
 TEL 084-953-1145 FAX 084-953-4911
 東京本社 〒163-6036 東京都新宿区西新宿六丁目8番1号
 新宿オークタワー(総合受付36階)
 TEL 03-5320-0717 FAX 03-5325-7811

■ 主要な経営指標

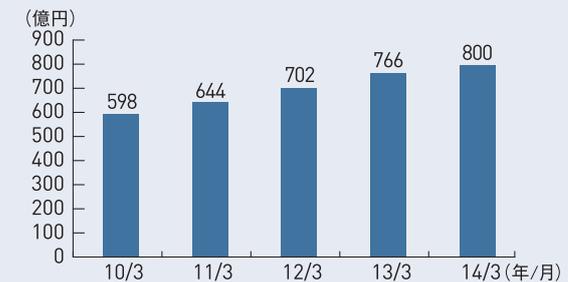
■ 売上高(連結)



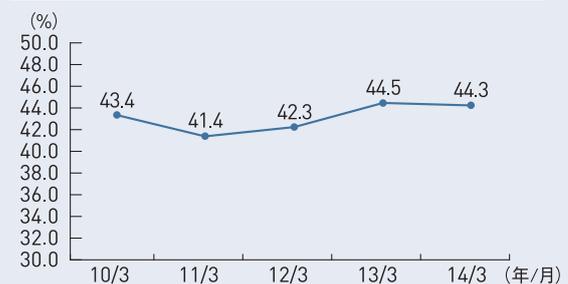
■ 経常利益(連結)



■ 純資産額(連結)



■ 自己資本比率(連結)



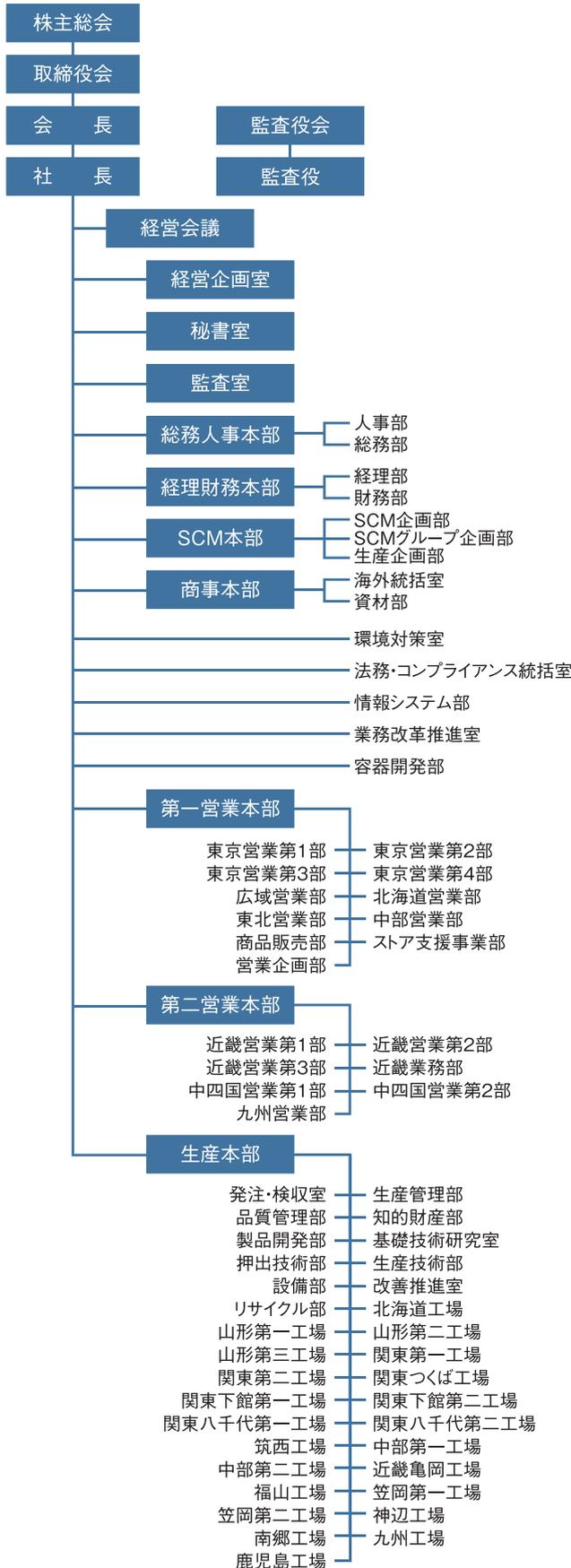
■ キャッシュフロー(連結)



組織およびグループ会社紹介

※組織およびグループ会社

※2014年4月1日現在



エフピコ グループ会社

■ 製造

- ・株式会社エフピコ北海道
- ・株式会社エフピコ山形
- ・株式会社エフピコ下館
- ・株式会社エフピコ茨城
- ・株式会社エフピコ中部
- ・株式会社エフピコ箕島
- ・株式会社エフピコ福山
- ・株式会社エフピコ笠岡
- ・株式会社エフピコ神辺
- ・株式会社エフピコ佐賀
- ・株式会社エフピコ筑西
- ・株式会社エフピコ南郷
- ・株式会社エフピコ鹿児島
- ・エフピコ寒河江株式会社
- ・株式会社ダックス
- ・株式会社ダックス四国
- ・株式会社ダックス佐賀
- ・エフピコ愛バック株式会社
- ・株式会社茨城ピジョンリサイクル
- ・エフピコ日本パール株式会社
- ・エフピコアルライト株式会社
- ・エフピコチューバ株式会社
- ・西日本ペットボトルリサイクル株式会社
(2014年6月)

■ 物流

- ・エフピコ物流株式会社
- ・株式会社アイ・ロジック
- ・エフピコイーストロジ株式会社
- ・エフピコウエストロジ株式会社

■ 販売・その他

- ・エフピコ商事株式会社
- ・株式会社エフピコモダンパック
- ・エフピコインターバック株式会社
- ・エフピコダイヤフーズ株式会社
- ・エフピコイシダ株式会社
- ・株式会社クックラボ

❖ 全国に広がる生産、物流、販売、リサイクルのネットワーク



関西配送・ピッキングセンター



山形選別センター



北海道配送・ピッキングセンター



中部配送・ピッキングセンター



九州配送センター



仙台営業所



福山リサイクル工場



関東八千代工場

★ 本社

本社 (広島県福山市)
東京本社 (東京都新宿区)

● 営業拠点

大阪支店 (大阪府大阪市)
札幌営業所 (北海道札幌市)
仙台営業所 (宮城県仙台市)
新潟営業所 (新潟県新潟市)
静岡営業所 (静岡県静岡市)
北陸営業所 (石川県金沢市)
名古屋営業所 (愛知県名古屋市)
広島営業所 (広島県広島市)
四国営業所 (香川県高松市)
福岡営業所 (福岡県福岡市)

● 生産工場

北海道工場 (北海道石狩市)
山形工場 (山形県寒河江市)
関東工場 (茨城県八千代町)
関東下館工場 (茨城県筑西市)
筑西工場 (茨城県下妻市)
関東八千代工場 (茨城県八千代町)
中部工場 (岐阜県輪之内町)
近畿亀岡工場 (京都府亀岡市)
福山工場 (広島県福山市)
笠岡工場 (岡山県笠岡市)
神辺工場 (広島県福山市)
四国工場 (高知県南国市)
九州工場 (佐賀県吉野ヶ里町)
南郷工場 (宮崎県日向市)
鹿児島工場 (鹿児島県鹿児島市)

● リサイクル工場

関東リサイクル工場 (茨城県八千代町)
中部リサイクル工場 (岐阜県輪之内町)
福山リサイクル工場 (広島県福山市)

● 選別センター

北海道選別センター (北海道石狩市)
山形選別センター (山形県寒河江市)
関東選別センター (茨城県八千代町)
東海選別センター (静岡県長泉町)
松本選別センター (長野県松本市)
金沢選別センター (石川県金沢市)
中部選別センター (岐阜県輪之内町)
西宮選別センター (兵庫県西宮市)
福山選別センター (広島県福山市)
九州選別センター (佐賀県神埼市)

● 配送センター

北海道配送センター (北海道石狩市)
東北配送センター (山形県寒河江市)
関東ハブセンター (茨城県八千代町)
東京配送センター (千葉県船橋市)
東海配送センター (静岡県長泉町)
中部配送センター (岐阜県輪之内町)
関西配送センター (兵庫県神戸市)
福山配送センター (広島県福山市)
九州配送センター (佐賀県吉野ヶ里町)

- ★ 本社
- 営業拠点
- 生産工場
- リサイクル工場

- 選別センター
- 配送センター
- ピッキングセンター

● ピッキングセンター

北海道ピッキングセンター (北海道石狩市)
東北ピッキングセンター (宮城県大衡村)
関東ピッキングセンター (茨城県八千代町)
茨城ピッキングセンター (茨城県八千代町)
西関東ピッキングセンター (東京都町田市)
東京ピッキングセンター (東京都江東区)
新潟ピッキングセンター (新潟県長岡市)
中部ピッキングセンター (岐阜県輪之内町)
関西ピッキングセンター (兵庫県神戸市)
福山ピッキングセンター (広島県福山市)
広島ピッキングセンター (広島県廿日市市)
九州ピッキングセンター (佐賀県吉野ヶ里町)

製品紹介：日本の食文化を支えているエフピコグループ製品

惣菜容器、弁当容器、小分け販売容器、汁物商品容器など、エフピコグループの製品は多岐にわたり、様々な食のシーンで消費者の皆さまのお役に立っています。

精肉



精肉用のトレーは最もスタンダードなエフピコ製品のひとつで、スーパーマーケットなどの売り場には不可欠な販売ツールとなっています。

惣菜



蓋付の惣菜容器は利便性が高く、広く活用されています。近年では個食用として少量で販売するための容器も需要が高まり、食べ残しにならないという意味でも社会のニーズにマッチしています。

青果物



主に野菜など採りたてのみずみずしさをそのままに販売するための容器です。お客様が新鮮さを確認できるように、全体に透明素材を使用しています。

オードブル



パーティーなど“ハレの日”用の食材を盛り合わせるために開発した容器です。大きさや形もさまざまで、用途によって使い分けいただけるようになっています。

電子レンジ対応



コンビニなどでも馴染み深い、そのまま電子レンジで温めることができる容器も多種あります。レンジアップ後、持っても熱くない断熱性のある素材を使用しています。

鶏卵



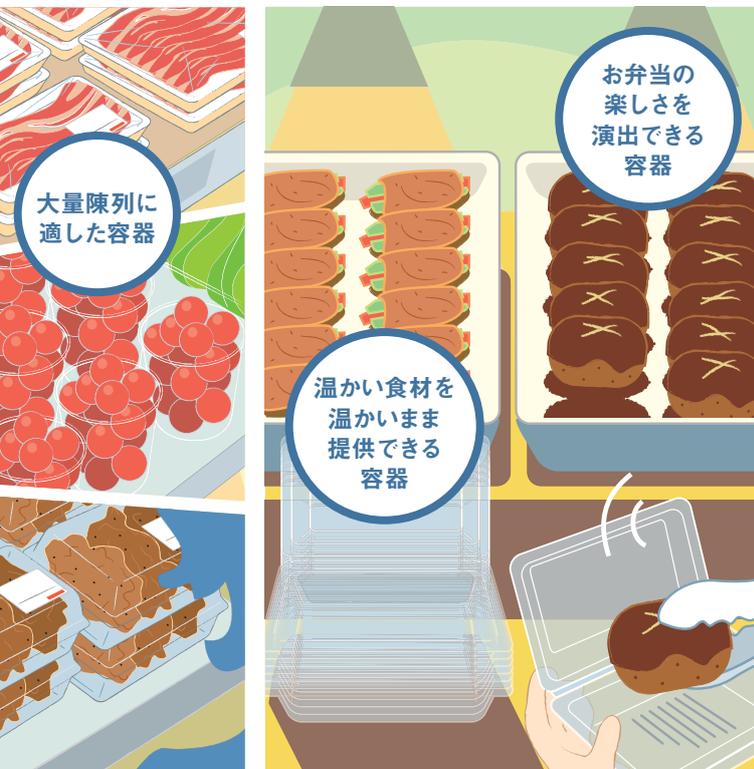
透明たまごパックの生産も行っています。再生PETを利用したりリサイクル製品です。

紙容器



紙を使用した蓋付きの弁当容器やテイクアウトフード用の容器です。和の雰囲気を出さる時など、食シーンに応じてお使いいただけます。





鮮魚

鮮魚にも広くトレーが使用されています。付加価値を付けた刺身などには蓋付きの透明容器も用いられ、商品の劣化を防ぐ役目も果たしています。



弁当

さまざまな素材を使い、盛り付けし易いよう、また食べ易いように仕切りを入れた容器です。軽さと強度を兼ね備えているほか、見た目の楽しさも演出しています。



寿司

一人前から数人前まで、寿司用の容器はエフピコの定番製品です。容器を傾けても中身がずれにくく、寿司の型崩れを防ぐ工夫も施しています。



菓子

団子、まんじゅう、ようかんなどの和菓子やドライフルーツなどのスナック用として使われています。商品の形に合わせた形状とすることで、型崩れを防いでいます。



汁物

販売店での需要を受けて開発した水漏れしにくい容器。密閉性を高くすることにより水分の多い商品に対応できる工夫がしてあります。



スクリューキャップ容器

食品に限らず、さまざまな小物を入れるための多目的容器として活用されています。透明で密閉性が高いため、その用途は多岐にわたっています。



フィルム製品

野菜、くだもの、生花などの包装用フィルムです。商品の鮮度を確認でき、商品の形状にかかわらず包装できる利便性が重宝されています。



経営

取りおける
組みみる

すべてのステークホルダーに信頼して
いただける企業であるためのガバナンス
体制についてご説明します。

大阪のビジネス街の中心
に移転したエフピコ大阪
支店。関西エリアでの営
業活動をさらに発展させ
る準備が整いました。



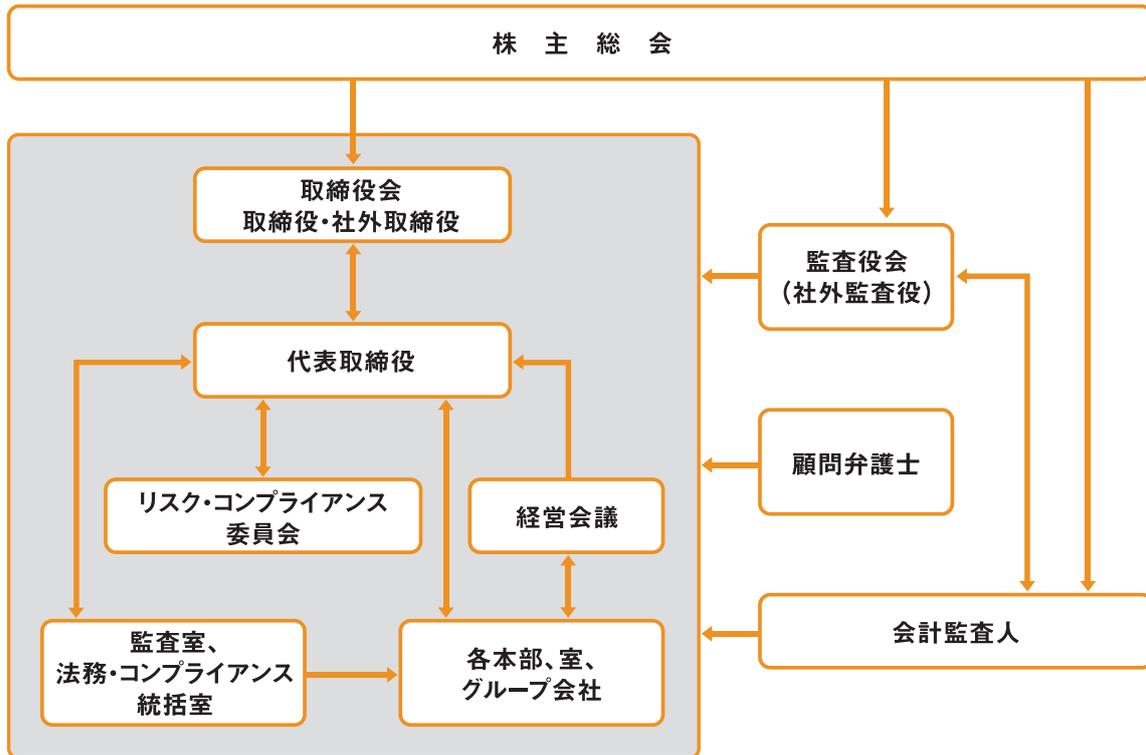
大阪支店ビル外観



大阪支店が入居する「ダイビル本館」は、大阪市北区中之島に位置しています。元々は大正14年に完工した歴史と伝統のあるビルで、2013年に大きくリニューアルされました。写真のビルのファサード部分は、90年前の建設当初の石の装飾彫刻を再利用したものです。エフピコはこのビルの最上階にオフィスを構え、関西エリアにおける営業の拠点としています。

❖ コーポレートガバナンス

エフピコのコーポレートガバナンスは、経営戦略に関する意思決定の迅速化と経営の効率性を高めること、透明性を確保することを基本的な考え方としています。また、当社を取り巻く株主・投資家、消費者・顧客、債権者・取引先等の利害関係者より信頼を得て、永続的に良き企業市民となるため、企業活動の情報開示を積極的に行っています。そのためのマネジメント組織としてエフピコでは「取締役会制度」「監査役会制度」を採用しています。



TOPICS 新たに2社がエフピコグループに仲間入り

2013年4月にエフピコイシダ(株)、7月に(株)エフピコ鹿児島が新たにエフピコグループに加わりました。



エフピコイシダ(株)

昭和25年に包装用パッケージ店として創業以来、広島県を中心に成長してきた(株)石田商店がエフピコイシダ(株)としてグループに加わりました。現在は包装容器のみならず、包装機材からシステムまでを扱うパッケージングの専門商社として幅広い活動をしています。



(株)エフピコ鹿児島

たまごパックを製造しているダイヤフーズ鹿児島工場が(株)エフピコ鹿児島として仲間入りしました。従業員数は53名。主に西日本エリアにおけるたまごパックの供給を担っています。



コンプライアンスとリスク管理

❖ コンプライアンス

法務・コンプライアンス統括室が健全な企業風土醸成のためにさまざまな研修を実施し、コンプライアンスの指導徹底に取り組んでいます。「エフピコグループ行動憲章」「エフピココンプライアンス行動規範」「行動羅針盤」はコンプライアンス遵守における指針となっています。

エフピコグループ行動憲章

株式会社エフピコグループの役員並びに社員は、当社の経営理念に基づき、法令、協定及び社内規程等を遵守するとともに、高い倫理観と社会的良識をもって、以下のとおり行動する。

1. 社会に有用な製品・情報・サービスを提供し、消費者・顧客の満足と信頼の獲得に努める。
2. 安全・安心・環境に配慮した製品を開発、提供し、もって食文化の発展に寄与する。
3. 消費者・顧客の協力を得て、「エフピコ方式」の循環型リサイクルを積極的に推進し、拡大生産者責任を果たし、地球環境の保全に努める。
4. すべての事業活動において、公正、透明、自由な競争を行う。
5. 株主や当社製品の利用者と広くコミュニケーションを行い、企業情報を積極的かつ公正に開示する。
6. 社員の人権と個性を尊重し、安全で働きやすい職場環境を実現する。
7. 政治、行政、取引先等とは、健全かつ正常な関係を保ち、市民社会に不安と脅威を与える反社会的勢力および団体の不当・不法な要求には一切応じない。
8. 良き企業市民として、積極的に社会貢献活動を行う。
9. 海外においては、各国の法令を遵守し、文化や慣習を尊重して事業活動を行う。
10. 経営全般にわたり有効性を評価し、合理化、効率化に努めて企業価値を高める。
11. 役員は、本憲章の精神と自己の役割を理解し、率先垂範のうえ、社員、グループ企業並びに取引先へ周知するとともに、社内体制の整備と見直しを積極的に行う。
12. 本憲章に反するような事態が発生したときは、会社の責任において、役員・社員一体となり、問題解決にあたり、原因究明と再発防止に努める。また、関係者の権限と責任を明確にしたうえ、厳正な処分を行う。

エフピコグループの社員一人ひとりのコンプライアンス意識を高め、責任ある言動を心がけることができるように、社員がいつでも確認できるところに「行動羅針盤」を掲示しています。

行動羅針盤

あなたの行為は、法令に違反しませんか
あなたの行為は、会社の方針に背きませんか
あなたの行為は、世間の常識に反しませんか
あなたの行為は、あなたの良心に背きませんか
あなたの行為は、エフピコブランドを傷つけていませんか

エフピコグループ



セクハラ・パワハラなど、職場で困ったとき、悩んだときの相談先として、相談窓口を設置しています。エフピコの人事部が担当しており、エフピコグループ全従業員が利用することができます。相談者に対しては公平でプライバシーを厳守した対応を約束し、安心して相談できる環境づくりを図っています。セクハラ、パワハラ等の職場の悩み、育児休業、介護休業等の制度に関する相談・問い合わせのほか、様々な相談に対応しています。



❖ リスク管理

企業に降りかかるリスクにはさまざまなものがありますが、普段からの準備と心掛けにより、その被害を最小限にとどめることができます。人が原因で起きる可能性のある事故や故障などのリスクと、自然災害によるリスクを想定し、エフピコでは以下のようにさまざまな対策を講じています。

● 人的災害への対応

人が十分な注意を払って管理を行うことで危険を予知し、防ぐことのできる災害はたくさんあります。人が想像できる範囲のリスクの発生は、人的な努力と創意工夫により防いでいます。



部門の垣根を越えて定期的に安全衛生会議を開いています。同じ敷地内で働く生産工場、リサイクル工場、選別センターなどの担当者が集まり、安全衛生に関する情報の共有を行います。



作業場における定位置の実践を徹底しています。全てのものが、あるべき場所にあるということは、それぞれの用具・道具を使用する作業をする上での安全確保に繋がります。



生産工場、リサイクル工場、物流センターなどを擁する複合施設のゲートでは、全ての車両を事前登録制として入退場管理を行っています。どの車両がいつ入場していつ退場したかを常に把握しています。

● 自然災害への対応

いつでもどこで発生するかわからない自然災害に対するリスク管理は、非常時における心構えを普段から持つことです。万が一のことを想定し、災害発生時には最善の対応ができるよう、体制を整えています。



工場やオフィスにはヘルメットや救急用品、非常持ち出しセットなどを常に配備して不測の事態に備えています。



障がいのある従業員が働く事業所では、毎月抜き打ちの避難訓練を行っています。障がいがあるということを言い訳にしないよう、繰り返しの訓練で非常時の対応を体で覚えます。



「災害時ハンドブック」は、災害時に迅速且つ適切な対応ができるよう、全従業員が携帯しています。東日本大震災の直後にも、まずはこのハンドブックを取り出して読むことから初動がスタートしました。

会長 小松安弘 旭日重光章を受章



平成25年秋の叙勲で、会長の小松安弘が栄誉ある「旭日重光章」を受章しました。これは使用済みトレーのリサイクルが国民的運動にまで発展し、地上資源の国内循環が実現したこと、および戦力としての障がい者雇用を積極的に推進して16%を超える雇用率を維持していることが評価されたものです。

1962年の会社設立から数十年にわたり、啓子夫人はエフピコの発展を大きく支える存在でした。

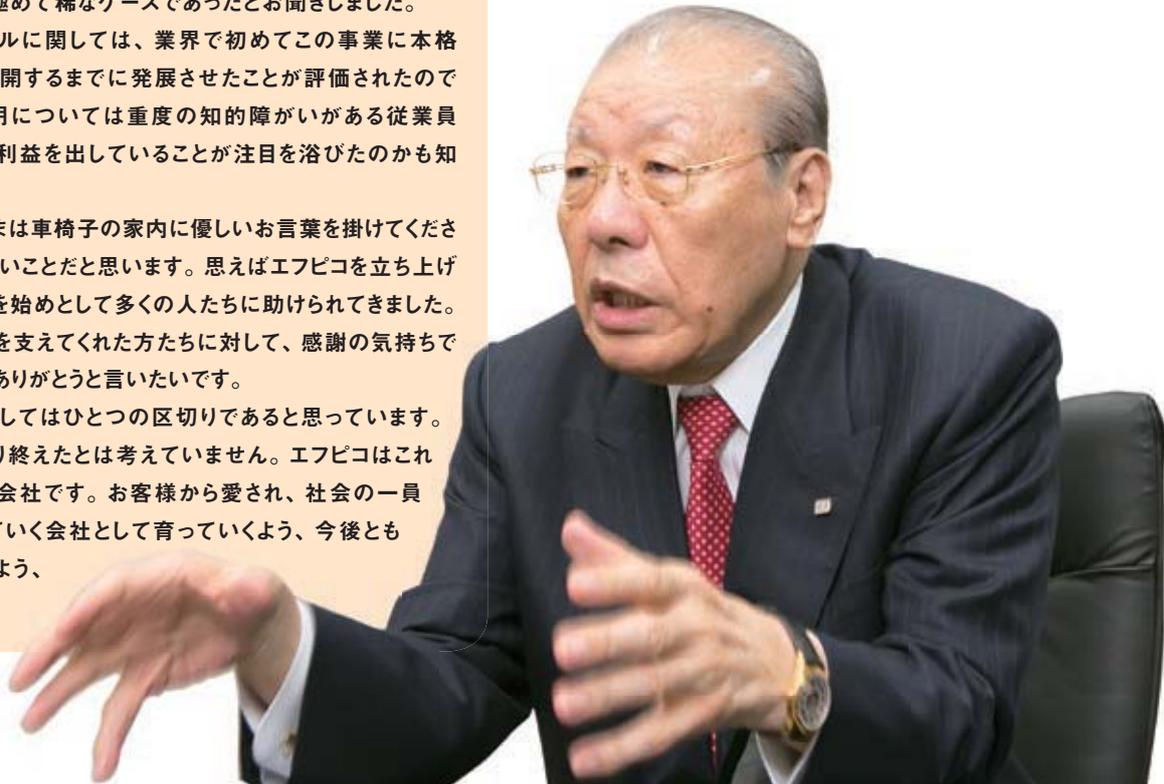
「旭日重光章」の受章は会長の小松が歩んできた人生における大きなマイルストーンとなりました。しかし、そこまでの道のりは決して平坦なものではなく、受章に際しての評価となった使用済み容器のリサイクル事業と障がい者雇用の拡大も苦難の連続でした。「忍」(がまん)を経営哲学として歩んできた小松にとって、今回の受章はその経営哲学を実践し続けた先にある大きな喜びでした。その喜びの気持ちを会長の小松が語りました。

この章をこれまでに受章された方々と比較して、当社のような規模の会社の経営者が旭日重光章などという栄誉ある章をいただいたことに大変恐縮しています。極めて稀なケースであったとお聞きしました。

食品容器のリサイクルに関しては、業界で初めてこの事業に本格的に取り組み、全国展開するまでに発展させたことが評価されたのでしょう。障がい者の雇用については重度の知的障がいがある従業員を多く雇用し、きちんと利益を出していることが注目を浴びたのかも知れません。

受章式の際、皇后さまは車椅子の家に優しいお言葉を掛けてくださいました。大変ありがたいことだと思います。思えばエフピコを立ち上げてからの数十年、家内を始めとして多くの人たちに助けられてきました。長きにわたってエフピコを支えてくれた方たちに対して、感謝の気持ちでいっぱいです。心より、ありがとうございました。

今回の受章は、私としてはひとつの区切りであると思っています。経営者として全てをやり終えたとは考えていません。エフピコはこれからもっと発展していく会社です。お客様から愛され、社会の一員としての責任を果たしていく会社として育っていくよう、今後とも末永くご愛顧賜りますよう、お願い申し上げます。



小松安弘略歴・主な受賞歴

略歴	1937年 7月17日	岡山県井原市に生まれる
	1960年3月	日本大学経済学部 卒業
	1962年7月	福山パール紙工株式会社 (現 株式会社エフピコ)創業 代表取締役社長就任
	1984年5月	ポストレンパー成型加工工業組合 理事長就任 (現 日本プラスチック食品容器工業会)
	1993年3月	ひろしま地球環境フォーラム 理事就任
	1995年3月	福山商工会議所 3号議員就任
	1996年5月	ポリスチレンパー成型加工工業組合 理事長再就任 (現 日本プラスチック食品容器工業会)
	1998年4月	プラスチック容器包装リサイクル推進 協議会 理事就任
	6月	食品容器成型懇話会 会長就任 (現 日本プラスチック食品容器工業会)
	2006年5月	公益社団法人日本包装技術協会 関西支部 理事就任

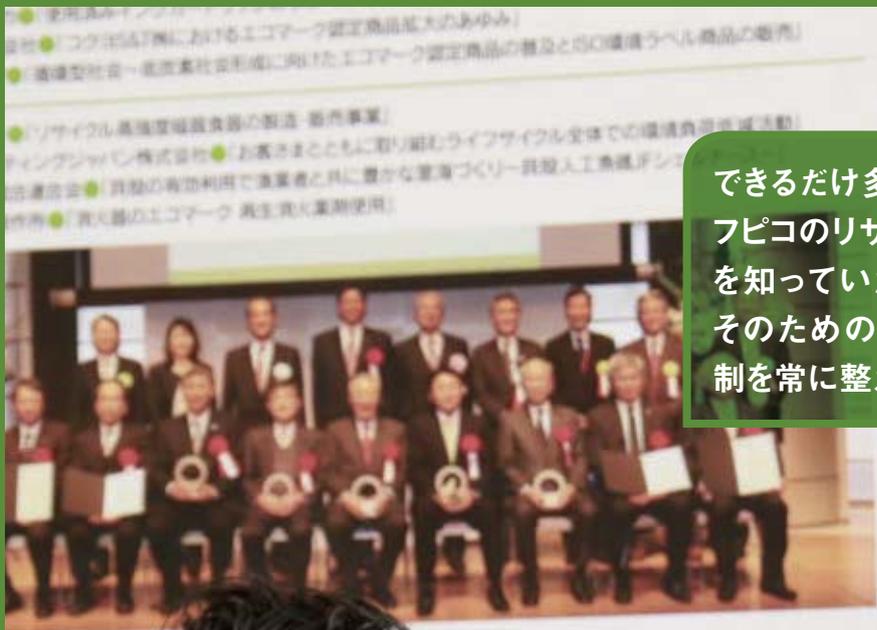
略歴	12月	財団法人小松育英会 理事長就任 (現 公益財団法人小松育英会 代表理事)
	2007年11月	財団法人小松奨学財団 理事長就任 (現 公益財団法人小松奨学財団 代表理事)
	2008年4月	PETトレイ協議会 会長就任
	5月	日本プラスチック工業連盟 理事 並びに監事就任
	7月	一般財団法人化学研究評価機構 評議員就任
	2009年6月	株式会社エフピコ 代表取締役会長兼最高経営責任者 (CEO)就任
	2010年5月	一般社団法人日本経済団体連合会 評議員就任
	2012年6月	一般社団法人日本経済団体連合会 幹事就任
	2013年5月	特定非営利活動法人 日本フロアホッケー連盟 理事就任
主な 受賞歴	1997年5月	藍綬褒章
	1999年2月	第19回毎日経済人賞
	2011年2月	第9回渋沢栄一賞



環境

取にお組ける
り組み

エフピコが地球環境保全のために
実践しているさまざまな取り組みを
ご説明します。



できるだけ多くの方にエフピコのリサイクル活動を知っていただきたい。そのため受け入れ体制を常に整えています。



PETボトル専用回収車



2013年に中部エリアで導入したPETボトル専用回収車。使用済みPETボトルを押し潰して積み込むため、通常同サイズのトラックの5倍の積載能力となります。近年高まっている店頭でのPETボトル回収のニーズに応える形で運用しています。



❖ エコ・ファースト制度



「エコ・ファースト制度」は、業界トップランナー企業が地球温暖化対策や廃棄物・リサイクル対策など、自らの環境に関する取り組みを環境大臣に対して約束する制度です。エフピコグループでは、2011年に環境大臣と「エコ・ファーストの約束」を交わし、『エコ・ファースト企業』に認定されました。具体的約束内容としては以下を掲げ、グループ社員一丸となって持続可能な社会の実現を目指して活動しています。

- ① 容器包装の3Rによる循環型社会の実現に向けた取り組みを積極的に推進
- ② 環境教育や社会貢献を積極的に推進
- ③ 環境マネジメントシステム「エコバリューチェーン」の推進

❖ エコマークアワード



(財)日本環境協会 エコマーク事務局が設立した表彰制度である「エコマークアワード」。エコマーク商品をはじめとする環境配慮型商品の製造、販売あるいは普及啓発を通じて、「消費者の環境を意識した商品選択、企業の環境改善努力による、持続可能な社会の形成」に向けて積極的に活動している企業・団体などの特に優れた取り組みを表彰するものです。2011年、この第1回目の最高賞である金賞に、「エフピコ方式による『トレー to トレー』のリサイクル」が選ばれました。

❖ 容器包装3R推進環境大臣賞



リデュース、リユース、リサイクルの「3R」を推進するために、環境省が平成18年に創設した表彰制度「容器包装3R推進環境大臣賞」の第1回選考において、エフピコは製品部門の最優秀賞に選ばれています。エコトレーの製造において消費者との連携を進めながら経済性とリサイクルを両立させたことが、評価されたものです。

TOPICS 「Fun to Share」キャンペーンに参加



エフピコは環境省が2014年3月にスタートした、豊かな低炭素社会の実現を目指し、企業や団体、地域、個人が知識や知恵を共有するキャンペーン「Fun to Share」へ参加することとなりました。「Fun to Share」とは、「最新の知恵をみんなで楽しくシェアしながら、低炭素社会をつくっていきましょう」という合言葉です。このキャンペーンは、日本政府が2013年11月に発表した地球温暖化外交戦略においてその努力の先頭に立つと宣言した「世界全体の温室効果ガスの排出量を2050年までに半減、先進国全体で80%削減」という目標達成に向け、その機運を日本全体で盛り上げるために開始されました。企業、団体、地域、個人などが低炭素社会に向けてシェアしたい取り組みを宣言することでこのキャンペーンに参加することができ、エフピコもこれまで培ってきた環境における様々な取り組みをシェアすることとなりました。エフピコ方式のリサイクルなど食品容器リサイクルを中心とした活動の成果が、日本中に広がっていくことを期待しています。



エフピコ・エコアクション50 (FPEA-50) の進捗状況報告

● 持続可能な社会構築に向けた「エフピコ・エコアクション50」

エフピコグループでは、環境経営計画「エフピコ・エコアクション50 (FPEA-50)」において、2020年度に向けた長期的なCO₂削減目標を策定しています。製品・生産・物流・販売・オフィスの各部門にワーキンググループを設置し、主体的に様々な目標を立て活動を実施。エフピコグループトータルでのCO₂削減に向けた取り組みを実施しています。



エコトレーはエフピコのエコアクションにおける中心的な存在です。

エフピコグループ長期CO₂削減目標

エフピコグループのCO₂排出量^(※)について

CO₂排出量を、2020年度までに20%削減(2003年度比)

CO₂排出原単位(販売枚数あたり)を、半減(2003年度比)

※改正省エネ法において報告対象となっているエフピコグループの全拠点(工場、配送センター、オフィス)からのCO₂排出量および特定荷主の責任範囲の物流に伴うCO₂排出量の合計。

● バリューチェーン全体でのCO₂の把握

エフピコグループのCO₂削減の取り組みに加えて、原材料調達から製品の廃棄・リサイクルまでを含めたバリューチェーン全体のCO₂排出量の把握・削減も重要視しています。そのため、様々な関係企業と共に、ライフサイクルアセスメントの手法や、国際的ガイドラインである「GHGプロトコル」のScope3スタンダードを活用しながら対応しています。また、地球温暖化に関する企業の開示状況や取り組みを評価するCDP(カーボン・ディスクロージャー・プロジェクト)にも積極的に参加し、バリューチェーン全体での「見える化」を進め、「省資源」や「リサイクル」で効果的な環境負荷低減に努めていきます。

製品ワーキンググループ



環境負荷の小さい製品の開発を行っています

→ P.23

生産ワーキンググループ



生産工場における環境負荷の低減に努めています

→ P.25

物流ワーキンググループ



全ての物流活動における環境負荷の低減を行っています

→ P.27

販売ワーキンググループ



エコ製品の販売拡大とリサイクルの推進を行っています

→ P.29

オフィスワーキンググループ



オフィスにおけるエコ活動の推進を行っています

→ P.30



● 各ワーキンググループによる具体的な取り組み

2020年のエフピコグループでの長期的なCO₂削減目標に連動して、それぞれのワーキンググループでは具体的な環境負荷削減アクションを展開しています。以下に2013年度の活動状況をご報告致します。

○ 達成 △ 目標値に対して未達10%未満 × 未達成

WG	項目	基準年度	2013年度目標	2013年度成果	評価
製品 ワーキング グループ	軽量化 (1枚あたり重量)	2007 年度	12%削減	10%削減 強度を上げるリブの研究や軽量化を進めるスペックダウンを継続的に実施。	△
	環境負荷の見える化		全新製品に対する事前LCA評価体制の構築 カーボンフットプリント制度への対応	毎年6月に各サプライヤーに対してCO ₂ 情報の提供依頼。基本フォームで約40社より回答。主要素材についての年次CO ₂ 把握体制の構築達成。	○
	グリーン調達		全調達先をガイドラインに基づき評価	年次毎のサプライヤーへの調査・評価体制の構築達成。	○
生産 ワーキング グループ	生産量あたり電力量	2007 年度	13%削減	13%削減 成型部門での効率改善や設備において省エネ機器導入により達成。	○
	ゼロエミッション (最終処分率)		1%未満	0.70% 連結工場を含めて、廃棄物処理業者と連携することで達成。	○
	管理体制		全生産拠点に環境マネジメントシステムを導入	連結工場や製造委託先工場においても情報を連動。グループでの環境負荷把握構築を達成。	○
物流 ワーキング グループ	管理体制	2008 年度	荷主責任範囲全体のCO ₂ 管理システムの構築	荷主責任範囲の環境負荷把握体制の構築達成。	○
	CO ₂ 排出総量		総量を17%増に抑える	18.5%増加 総量目標削減という意欲的目標掲げてチャレンジしたが、物量が相当量増加したため、総量削減の未達成。	△
販売 ワーキング グループ	汎用製品に占めるエコトレー率	2007 年度	75%	79% 効果的な営業活動により、高い割合に到達、エコトレーの認知度も向上。	○
	APET製品に占めるエコAPET		50%	55% PETボトルの国内循環を達成。食品グレードのリサイクル材料使用。循環型をアピールし効果的に販売。	○
	リサイクル回収量UP		PSP回収量: 8,500t/年 PETボトル回収量: 12,000t/年	6,104t/年 容器の軽量化に伴い回収量減少。容り法メリットも提案実施。	×
	お客様&消費者の皆様への啓発		リサイクル工場見学250企業	5,398t/年 店頭回収品の効果的な回収を提案中 年間118件 PETボトルリサイクル工場見学も寄与したが、営業が関係するお客様の見学件数は目標未達。しかし、お客様の主催する見学ツアーが広がりを見せており、これは効果的であった。	×
オフィス ワーキング グループ	環境負荷低減	2007 年度	床面積あたり電力使用量13%削減	21%削減	○
			営業車両のCO ₂ 排出量20%削減	27%削減	○
			廃棄物排出量5%削減	9.5%削減	○
			紙使用量25%削減	18%削減	×
			グリーン購入率60%	58%	△
	従業員意識向上		管理者/従業員に対する「見える化」実現	複合機のカウンタ数等の掲示・社内開示促進。クールビズ・ウォームビズの実施。	○

【2013年度 活動評価】

各ワーキンググループにおいて、その性格に応じて目標を定めて取り組みを行ってきました。全体的に評価すると、概ね順調に推移しています。特に、グループの活動において環境負荷量の圧倒的に多い生産ワーキンググループにおいては、電力削減、廃棄物の最終処分率の削減をターゲットにし、目標を達成しています。これはコスト削減にも大きく貢献しています。販売ワーキンググループにおいては、リサイクルトレーの販売が好調なことから、リサイクル原料となるトレー、PETボトルの回収量を増加させるための高い目標を掲げましたが、目標達成には至りませんでした。今後も工場見学等を通してアピールし、リサイクルへの回収量アップにつなげていきます。

環境活動意見交換会



市民団体の皆様と共に歩む エフピコ方式のリサイクル

「持続可能な循環型社会の構築に向けて」をテーマに意見交換会を開催しました。

❖ エフピコの容器リサイクルと 市民団体

エフピコが使用済みトレーのリサイクルをスタートしたのは1990年のこと。自社が製造した簡易食品容器を使用後ごみとして廃棄せず、拡大生産者責任において回収・リサイクルしたエコトレーを市場に投入する水平リサイクルを行うことで、貴重な地上資源を国内循環させることが目的でした。

最初はエフピコが本社を構える福山市と大阪市の6店舗のスーパーマーケットで使用済みトレーの回収をスタートしましたが、リサイクル活動が軌道に乗るようになるまでの道にはいくつもの大きな困難が待ち受けていました。リサイクルするための回収を販売店や消費者の方々にもお願いしても、「そんな面倒なことはできない」というのが大方の反応だったからです。

しかし、地域のごみ問題や地球環境問題への意識の高

まりもあり、食品容器のリサイクルに賛同していただける方もだんだんと増えていきました。こうした時期にエフピコが目指す循環型リサイクルに最大限の協力をいただいたのが、今回の意見交換会に参加いただいた消費者・環境団体の皆様でした。時には一致団結して、時には相容れない意見を抱えながら、循環型社会を目指すという共通の目的のために共に歩み始めたのです。

❖ ひとつの節目と真の 循環型リサイクルへの決意

多くの市民団体の方々の協力を得て、エフピコ方式のリサイクルは軌道に乗りました。使用済みの容器を回収・リサイクルしエコトレーを販売店で使用いただくことで、今では毎年5万トン以上のCO₂削減を実現しています。また、回収した容器を選別する過程において障がい者の雇用も

リサイクル工場見学会

意見交換会に先立って行われた中部リサイクル工場見学会では、発泡トレイ、透明容器、PETボトルの三種類のリサイクル工程をご覧いただきました。搬入された使用済みトレイや容器を選別する過程では障がい者雇用とリサイクルの関係について理解を深めていただける良い機会でもあります。エフピコのリサイクル工場の見学は初めてという方や10年ぶりという方などは、その規模と障がい者の方が戦力となっていることに感嘆の声を上げていらっしゃいました。



全国で回収された使用済みPETボトル



障がい者の力が活かされる使用済み透明容器の選別工程



リサイクルの最終工程で出来るペレット（再生原料）

開催日：2014年1月24日
場 所：エフピコ中部リサイクルセンター
（岐阜県輪之内町）

行い、それらのことが評価されて創業者の小松安弘は「旭日重光章」という荣誉ある勲章もいただきました。これはエフピコが展開するリサイクル事業にとって大きな節目と言えるでしょう。

しかし、これらの実績に安穩としていることもできません。真の循環型リサイクルとは、回収という入口とリサイクルされたエコ製品の使用という出口が相まってはじめて成し得るものです。

エフピコが製造する発泡トレイのうち回収されているのは現時点で約30%というのが実情です。リサイクル活動の規模は全国に広がり大きくなったものの、真の循環型リサイクルの実現は、まだ道半ばなのです。

そこで今回、もう一度これまでの長い経験と知見をお持ちの市民団体の皆様との絆を深めると同時に、今後に向けたご意見をいただきたいと考え、意見交換会を開催しました。



■ 市民団体 ● エフピコ

うちは「リサイクルクイズ」というベタな手法で3年間やってきたが、効果は抜群。

エフピコさん単独ではなく、業界上げて真剣に取り組むことが必要では？

スーパーマーケットだけでなく多様な回収ルートを。

まだまだ一般消費者への普及・啓発が足りない。

使用済みトレーの回収量が頭打ちになっています。もっと増やしていくために皆さんからのアイデアや意見をいただけませんか？

消費者が店頭を持っていくインセンティブはお得感(ポイントなど)。

アンケート調査で、子供に言われたことがきっかけで店頭にも持って行くようになったという親が多くいた。市民、学校での環境教育も必要。

地域での行政・企業・市民・NPOが一緒になった取り組みも必要。

消費者は商品の内容と値段で選ぶからエコマークがついていてもあまり効果はない。

小売業が積極的に使うべきで、それを働きかけるのは私たち消費者であり消費者の声がお店を動かす。

回収という入口論に留まらず回収してリサイクルされたものの使用という出口がなければ真の循環型リサイクルではないのでは？

かつて実施したことのあつる回収インセンティブをもう一度やろうと計画しています。全国のスーパーさんと交渉中です。それを起爆剤としてもう一度容器回収の機運を盛り上げたい。

国内でいかに資源を循環させるか私たちは関心と危機感を持たなければいけない。

極力使わない方がいいのが本来であるが、使わざるを得ないものには資源循環の出来ているものを使うよう働きかけるべきでは。

業界には拡大生産者責任だけでなく拡大販売者責任という意識を持ってほしい。

拡大生産者責任を果たすことで余分な税金を使わなくて済み、それを福祉等に回せる。私たちがこのような企業を応援することです。そ野が広がるのでは。

私たちはどこにどう声をかけるかで社会が変わっていくことを見極めるべき。

環境に配慮した消費者、小売業、メーカーの三位一体で推進しなければ循環型リサイクルは発展しない。



❖ 見えてくる課題と課題解決の難しさ

たくさんのご意見やアイデア、また叱咤激励をいただきました。エフピコの活動を評価していただく発言がある一方で、まだまだ努力不足というお言葉も。循環型社会を実現するという同じ理念を共有しながらも、やはり立場の違いから、ご参加の皆様とエフピコでは異なる方向を見ているケースもありました。

真の循環型リサイクルをさらに発展させていくためには、これまで作り上げてきた消費者、販売者、メーカーが三位一体となったこのシステムをより強固にしていくことが重要です。それは現時点でも確立しているものの回収率が約3割という現実の前では、もどかしさを感じずにいられません。

私たちがやらなければいけないのは、それぞれの立場か

らの施策をさらにパワーアップさせること。それに加えて3者の後押しをするような行政の取り組みや法整備というところまで枠を広げて考えなければならないでしょう。しかし、そのためには循環型社会を望む一般市民の声の高まりが大前提かもしれません。課題の解決は決して単純ではないと言えます。

創業者である小松の経営哲学は「忍」(がまん)です。最初に発泡スチロールトレイのリサイクルをスタートさせた時も忍耐力をもって着実に歩みを進めました。課題を前にしている現在もエフピコは忍耐強く活動を続け、立ち止まらないことを心がけています。そのために、今後も定期的にこのような機会を設け市民団体の方々との連携を深め、協働の下で解決策を探っていくつもりです。

今回の企画にご賛同いただき、意見交換会にご参加いただいた皆様に心より御礼申し上げます。

■参加団体・個人(事務所所在地) ※あいうえお順・敬称略

- | | |
|---|-----------------------|
| ①NPO法人 愛知環境カウンセラー協会(愛知県) | 山川幹子 |
| ②公益財団法人岡山県環境保全事業団 環境学習センター「アスエコ」(岡山県) | 中平徹也 |
| ③NPO法人 イー・ビーイング(大阪府) | 井上健雄、井上明子、八木綾子 |
| ④エコウェブおかやま(岡山県) | 成田美和子 |
| ⑤エコローズ企画(広島県) | 木村卓弘、岡本範枝、渡部誠吾 |
| ⑥ごみ減量・もったいないねっと山形(山形県) | 金澤和子、中村明千、高野英昭 |
| ⑦主婦連合会(神奈川県) | 木村郁子、平野澄子、山崎初美 |
| ⑧NPO法人 持続可能な社会をつくる元気ネット(東京都) | 鬼沢良子、足立夏子、柘中多賀子、秋田さかえ |
| ⑨全国生活学校連絡協議会(岐阜県) | 金山富士子、野村昭子、林 貞、松原妙子 |
| ⑩東京都地域消費者団体連絡会(東京都) | 奥田明子、内藤裕子、西澤澄江 |
| ⑪NPO法人 菜の花プロジェクトネットワーク・碧いびわ湖(滋賀県) | 藤井絢子、浅野博子、菱田みよ子 |
| ⑫公益社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会(東京都) | 大石美奈子、西村直泰 |
| ⑬NPO法人 ピープルズコミュニティ(岐阜県) | 安田裕美子、浅野かつ代、浅野敏子 |
| ⑭容器包装の3Rを進める全国ネットワーク(東京都) | 中井八千代、羽賀育子 |

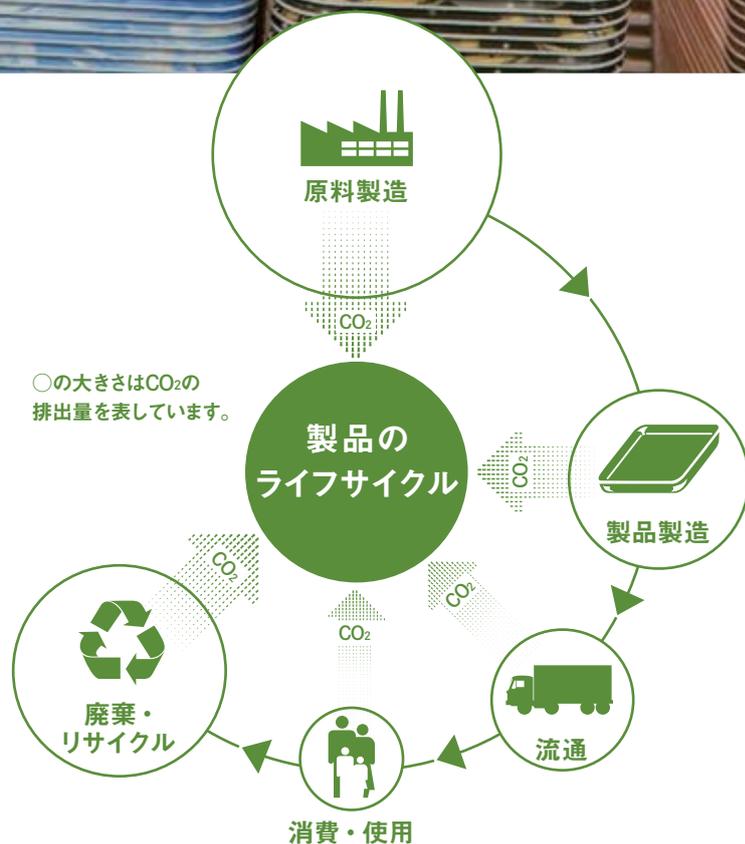


製品開発における取り組み

毎年、約1,000アイテムもの新製品が開発されています。生活の中の食品容器は常に進歩しているのです。

❖ 製品を通して考え、実践する環境負荷低減策

製品のライフサイクルを詳細に見ていき、それぞれの過程で排出されるCO₂を見える化することも製品開発部門の役割となっています。ライフサイクルアセスメントの手法を用いて環境負荷の算定を実施しています。右の図の通り「原料製造」、「廃棄・リサイクル」におけるCO₂の排出が大きいことが分かっています。このことからエフピコでは使用済み容器をペレットという原料に戻して使用する循環型のリサイクルの推進に力を注いでいます。これにより、製品のライフサイクルの工程のうち、2つの工程におけるCO₂を一度に減らすことができます。また、少ない素材で製品をつくる方法の開発や素材調達の部分でもグリーン調達などの努力も行っています。さらに、環境負荷の小さいPP素材製品も視野に入れたバランスの良い製品開発を行っています。



◆製品開発でできること

エフピコが製造する食品容器は、エンドユーザーである消費者の方々および製品を使用するお客様（販売店舗）にとっての利便性を追求したものとなります。しかし製品開発という過程は、製品による環境負荷低減を実現するため

の絶好の機会でもあります。エフピコが開発する食品容器は、さまざまな機能を備えた利便性の高い製品であると同時に、環境への負荷を小さくするための工夫が詰まったアイデアの結晶でもあるのです。

素材の軽量化・薄肉化

①より薄い素材を開発します



■ 透明PP

- 耐熱性が高く、薄い素材の容器です
耐熱温度：110度（電子レンジ使用可能）
- 透明性に優れています



■ 1軸延伸PET

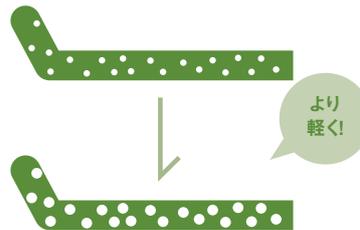
- 1つの方向からシートを延伸させることで強度をアップしました
- 強度アップと同時に軽量化しました
無延伸PETに比べ、約25%軽量化



■ 2軸延伸PET (OPET)

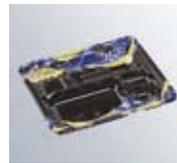
- PETを縦・横に延伸させ従来特性の耐油性、透明性を維持した上でOPS並みの80度耐熱を実現しています

②素材を軽量化（高発泡化）します



■ マルチFP (MFP)

- 耐熱性・耐寒性・断熱性に優れています
耐熱温度：110度（電子レンジ使用可能）
耐寒温度：マイナス40度
- 軽さを追求しました
軽量素材：PPフィラーと比べて約60%軽量化

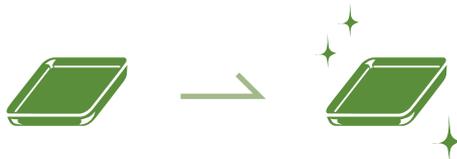


■ マルチSD (MSD)

- マルチFPの非発泡タイプです。
耐熱性・耐油性に優れています。
耐熱温度：110度

PP	……	ポリプロピレン
PET	……	ポリエチレンテレフタレート
OPET	…	2軸延伸ポリエチレンテレフタレート
OPS	…	2軸延伸ポリスチレン
MFP	…	耐熱・耐寒発泡ポリスチレン
MSD	…	マルチFPの改良により生まれた非発泡ポリスチレン

リサイクル素材の使用



■ エコトレー

- スーパーなどで回収されたPSP素材（発泡素材）容器の再生品です。何度も繰り返し再生できる循環型リサイクルトレーです。

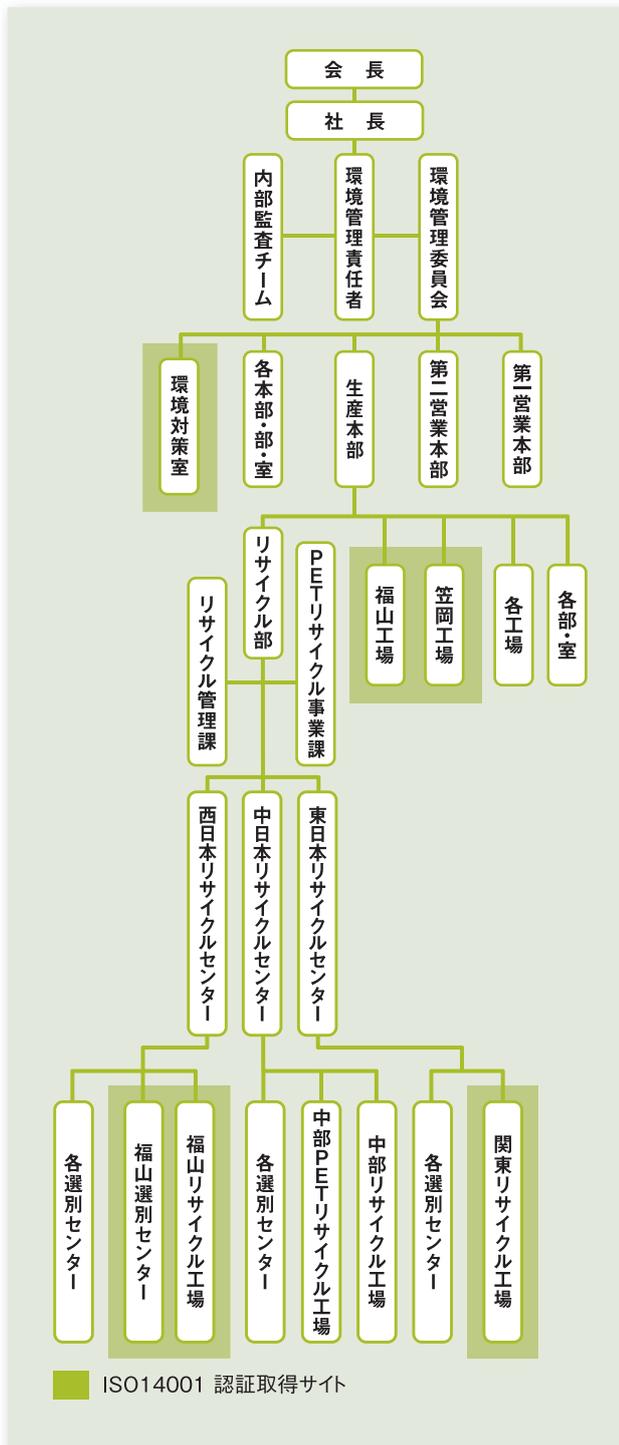


■ エコAPET

- スーパーなどで回収された透明容器やPETボトルを再び透明容器として甦らせました。透明性・耐油性に優れています。

APET …… 非結晶ポリエチレンテレフタレート

工場における取り組み



❖ 環境マネジメント体制

エフピコは、環境負荷低減に全社を挙げて取り組んでいます。また、その取り組みを効果的に行うとともに、継続的なものとして社内に根付かせていくために、社内の取り組みをリードする「環境管理委員会」を組織しています。環境マネジメントシステムの導入により、継続的改善に向けて活動を続けています。

❖ 環境方針

基本理念: 当社は地球環境の保全が最重要課題であるとの認識のもとに、環境と調和し持続的発展が可能な社会の実現に貢献することを基本理念とし事業活動を推進する。

方針:

1. CO₂削減、天然資源の有効活用の立場から、当社の事業活動、製品及びサービスの省資源化につとめると共に、一般家庭から排出される使用済み容器を再生利用する『エフピコ方式』のリサイクル事業を積極的に推進する。
2. 環境側面に関して適用可能な法的要求事項、及び当社で同意するその他の要求事項を順守すると共に、著しい環境側面に対し自主基準を定め、汚染の予防を行う。
3. 環境側面を考慮して環境目的及び環境目標を定め、管理計画を立案、推進すると共に、内部監査及び最高経営層による見直しを実施し、継続的改善を行う。
4. この方針は、環境マネジメントシステムを確立し、実行し、維持する。
5. この方針は、文書化し、全従業員及びエフピコ敷地内契約者にも周知徹底する。
6. この方針は、パンフレット、インターネットを通じ一般の人にも開示する。



関東八千代工場は
物流センターとリサイ
クル工場を併設した
効率性を追求した施
設です。

❖ 「ものづくりプロジェクト」の推進

エフピコの生産部門では、生産性向上を目指して「ものづくりプロジェクト」という施策を継続的に実施しています。年に2回全国の工場スタッフが集まり、業務の効率化に関する成果発表会を行ってきました。「3定管理」(定品・定位置・定量確保)、「習熟度評価」、「活スペースの創出」など様々な施策がここから生まれました。

また、生産の現場で働くオペレーターのスキルアップを目的とした「技能塾」を年2回開催しています。この「技能塾」と呼ばれる活動は「ものづくりプロジェクト」の一環であり、研修プログラムの修了者には受講の回数やコースの種類によってランク付けされたワッペンが付与されます。ソフト面での効率化の推進による環境負荷低減の一環としています。

❖ 工場データの見える化と機器リニューアル

生産工場のユーティリティーを無駄なく使用するための見える化は非常に重要です。10分単位、30分単位、長い時間では月ごとの数値でもユーティリティーの使用状況を確認します。見える化によって明らかになったCO₂を削減するため、随時設備や機器のリニューアルを行っています。

❖ 「ペレット省エネプロジェクト」

エフピコでは長い間、容器製造の過程で生じる端材などをリサイクルしてきましたが、この作業だけに特化したワーキンググループはありませんでした。そこで今年度、端材が生じる全国14ヵ所の工場などの担当者による「ペレット省エネプロジェクト」を立ち上げました。情報の共有を目的としたこのプロジェクトにより、主に電気使用量の低減が見込まれています。

❖ ゼロエミッションと消耗品等のリサイクル

生産工場から排出される産業廃棄物の最終処分率1%未満達成を目標とし、ゼロエミッション活動を行っています。産業廃棄物処理業者と綿密なコミュニケーションを取り、処理方法や最終処分量をモニタリングしています。また、生産過程で出る端材、製品や使用済み容器の梱包材なども可能な限りリサイクルしています。



定位置に置かれた工具類



「技能塾」修了者ワッペン



集中管理システム
モニター

2013年度に導入された
インバーター



端材のリサイクル

物流における取り組み

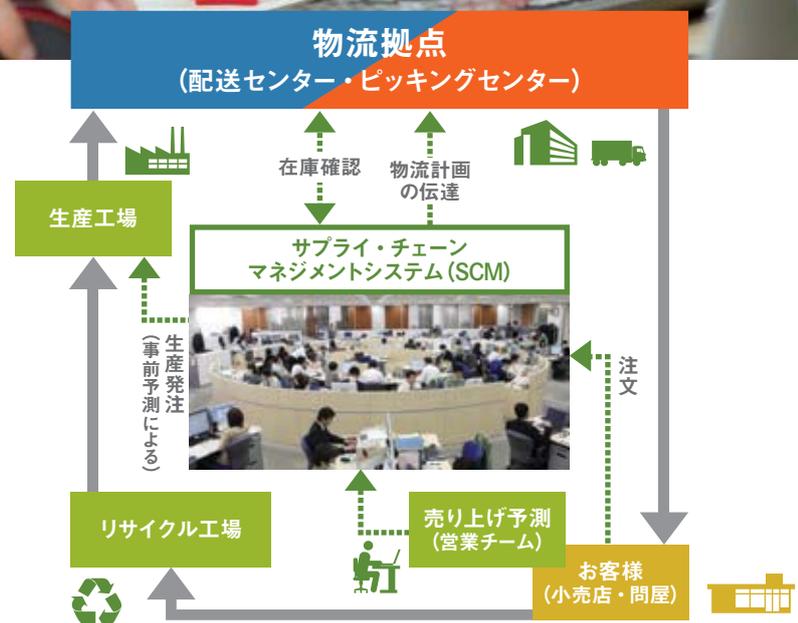
❖ エフピコの物流管理

エフピコの物流システムの根幹は、サプライチェーン・マネジメント (SCM) による中央集中管理システムです。製造から納品・使用済み製品の回収にいたるまでに発生するすべての物流活動を最も効率的に、最も短い移動距離とするよう計画的な配車を行っています。

物流の司令塔としての SCM は部署間の垣根を超えた全社的なコミュニケーションがその基盤となっています。

営業チームによる売上予測、物流チームによる製品ごとの在庫状況、生産チームによる生産のスケジュールなど、全ての情報を吸い上げて集中管理することにより、物流活動の徹底した効率化と無駄の削減を実現しています。その結果として、CO₂の排出量低減に大きく寄与しています。

エフピコのSCMシステムは物流活動の心臓部であり、その手足として自社物流のネットワークがあります。配車計画が自由にできる自社物流だからこそ、徹底した物流の集中管理が可能なのです。





❖ 自社物流ネットワーク

エフピコはエフピコ物流(株)を中心とした自社による配送センターとピッキングセンターを擁しています。これらの物流拠点は生産拠点までの距離、製品を納品する地域の地理的条件などを考慮して配置され、製造後のタイムロスなく目的地に製品を届けることにより環境負荷の低い物流活動を展開しています。

2013年度には新たに2ヵ所の物流拠点を開設し、次年度はさらに八王子配送センターと福山クロスドックセンターが稼働します。どの施設にも最新の技術を導入した設備を備え、さらなる省力化とコスト削減を目指しています。

● 配送センター

北海道配送センター	(北海道石狩市)
東北配送センター	(山形県寒河江市)
関東ハブセンター	(茨城県八千代町)
東京配送センター	(千葉県船橋市)
八王子配送センター(予定)	(東京都八王子市)
東海配送センター	(静岡県長泉町)
中部配送センター	(岐阜県輪之内町)
関西配送センター	(兵庫県神戸市)
福山配送センター	(広島県福山市)
九州配送センター	(佐賀県吉野ヶ里町)

● ピッキングセンター

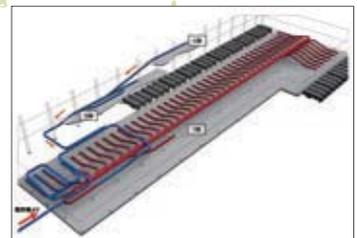
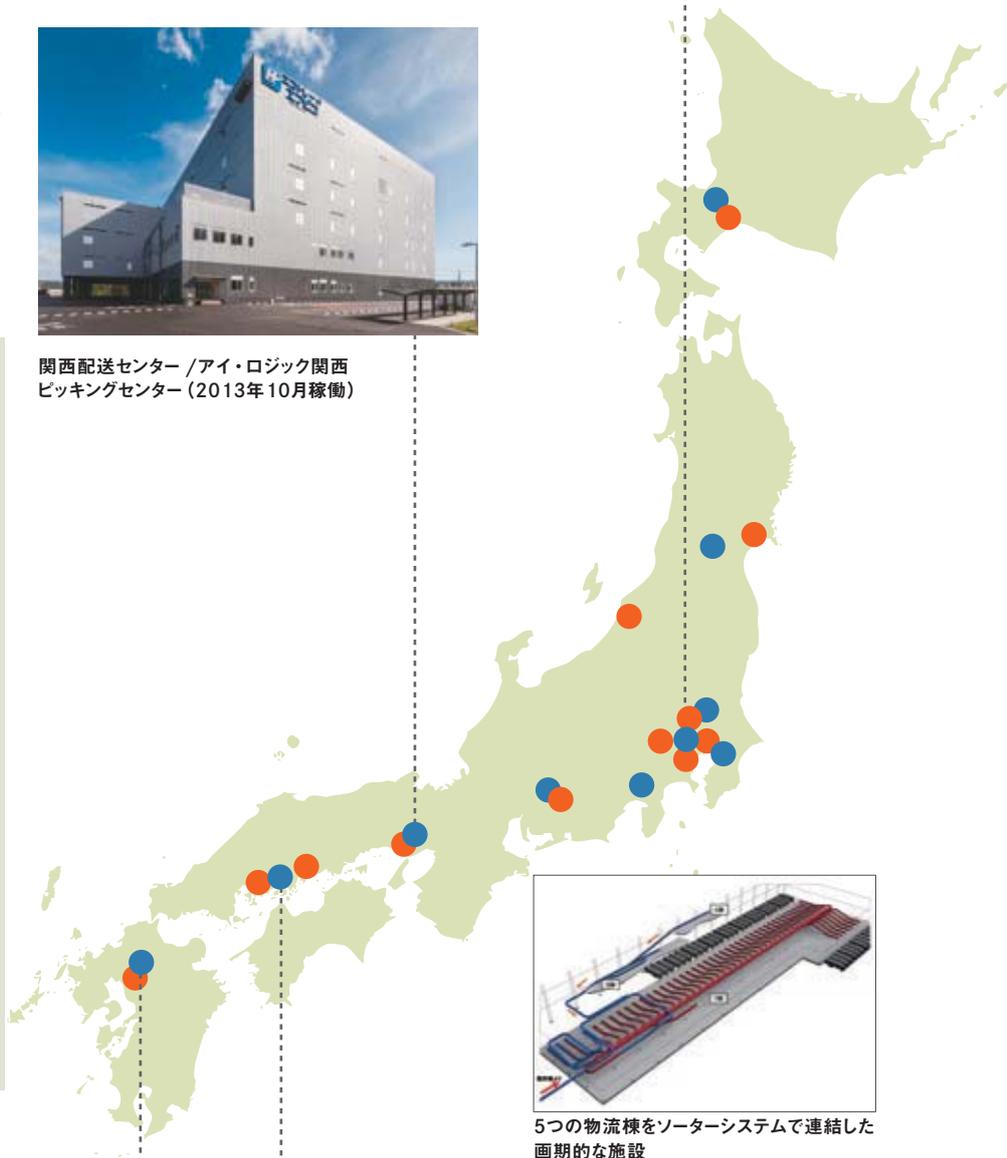
北海道ピッキングセンター	(北海道石狩市)
東北ピッキングセンター	(宮城県大衡村)
関東ピッキングセンター	(茨城県八千代町)
茨城ピッキングセンター	(茨城県八千代町)
西関東ピッキングセンター	(東京都町田市)
東京ピッキングセンター	(東京都江東区)
新潟ピッキングセンター	(新潟県長岡市)
中部ピッキングセンター	(岐阜県輪之内町)
関西ピッキングセンター	(兵庫県神戸市)
福山ピッキングセンター	(広島県福山市)
広島ピッキングセンター	(広島県廿日市市)
九州ピッキングセンター	(佐賀県吉野ヶ里町)



八王子配送センター(2014年9月稼働予定)



関西配送センター / アイ・ロジック関西ピッキングセンター(2013年10月稼働)



5つの物流棟をソーターシステムで連結した画期的な施設



九州第二配送センター(2013年7月稼働)



福山クロスドックセンター(2014年6月稼働)

販売活動における取り組み



エフピコ方式のリサイクルシステムを力強く循環させるために、より多くの容器回収の努力を続けています。

❖ 低環境負荷製品の販売促進

一度使用した食品トレーや容器を廃棄せず、再生原料として使用することにより、エコトレーとエコAPETには二重のCO₂削減効果があります。一度のみならず、何度でも使用・回収して生まれ変わるリサイクル製品はエフピコ自慢の環境対応型製品です。これらのリサイクル製品を積極的にお客様にお薦めするのは、エフピコならではの販売活動における環境への取り組みと言えます。



エコトレーは一度使用したトレーを回収し、リサイクルした原料から再生した環境対応製品。



エコAPETは使用済みの透明容器およびPETボトルをリサイクルして製造した容器。

❖ 容器回収拠点の強化・推進

スーパーなど食品トレー・容器を使用するお客様にエコトレーやエコAPETなどの環境対応型製品を薦める一方で、スーパーなどで商品をお買い上げされる消費者の方々に対しては、使用済みトレー・容器・PETボトルの回収への協力をPRしています。製品の循環型リサイクルには、消費者の皆様が使用済み製品を店頭にお持ちいただくことが必要不可欠だからです。エフピコではスーパーなどの店頭で掲示する回収のPR用ポスターなどを多く用意しています。しかし、回収率は3割程度と決して高くないのが実情であり、さらなるPRや啓発活動が必要であると考えています。



エフピコではこのように様々な種類のポスターを作成し、スーパーなどお客様に掲示をお願いしています。

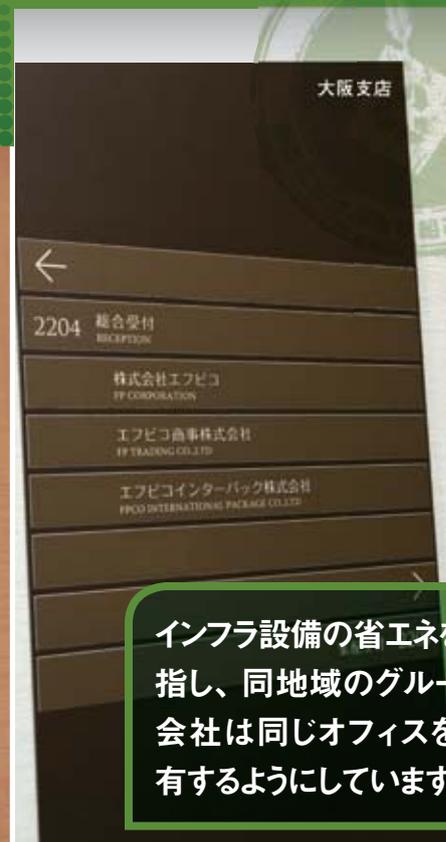
オフィスにおける取り組み



仙台営業所



東京本社



インフラ設備の省エネを目指し、同地域のグループ会社は同じオフィスを共有するようにしています。

❖ オフィスで実施している様々な省エネ活動

● クラウドシステム

社員が使用するパソコンの電気使用量を抑えるため、各自のデスクにはモニターのみを設置し、ハードディスクに相当する部分はサーバーを活用しています。

● テレビ会議システムの活用

全国に広がるグループ会社の支店、営業所、生産拠点などとの会議では出張によるCO₂削減にテレビ会議が役立っています。

● 低公害車の導入

- ・電気自動車：1台
- ・ハイブリッドカー：128台
- ・低公害車：142台
- ・軽自動車および小型車：12台

※2014年3月末現在

● エコドライブモニタリング

遠隔監視システムにより、急発進や急ブレーキなど必要以上に燃料を使う運転をモニターし、安全でエコな運転を推進しています。

● ペーパーレス

出荷実績など業務系の大量の書類のプリントアウトは行わず、メールなどのデジタル配信としています。

● 節電

使用電力量の見える化により適温設定や必要のない照明オフなどを実践しています。

● パソコンリサイクル

社内のパソコンはシステム部が一括して管理していますが、機器をリニューアルする際には専門の業者を通してリサイクルしています。

● グリーン購入

オフィスで使う事務用品や備品などは、環境負荷が小さい商品やサービスを積極的に購入・利用しています。

● 環境セミナーの開催

環境に配慮したビジネス、リサイクルを始めとしたエフピコが実践している様々な取り組みについて、外部の講師をお招きして定期的に社員を対象としたセミナーを開催しています。

クラウドシステム用
デスクトップパソコン

テレビ会議システム



電気自動車



環境セミナー

エフピコ方式リサイクル

エフピコでは、一度使用されたトレーを回収し「エコトレー」(再生トレー)を生産しています。そのリサイクルシステムをエフピコ方式のリサイクル「トレー to トレー」と呼んでいます。使用済みトレーを廃棄せず、回収し再生原料として使用することによる、資源循環とCO₂削減のダブル効果があります。生産者であるエフピコから最終的な使用者である消費者へといたる道を逆にたどることで、使用済みトレーをエフピコへと戻すこのシステムは、消費者、スーパーマーケットなどの流通業者、包材問屋、エフピコの4者が一体となった協力体制で成り立っています。



包材問屋には、スーパーなどに納品した帰りの便を利用して、使用済みトレーの引取と自社内にて一時保管をお願いしています。



消費者から持ち込まれたトレーは、店頭の回収箱で集めます。スーパーマーケットと消費者とのつながりもより強力に。



消費者の方には、使用済みトレー、透明容器、PETボトルの水洗いと乾燥をお願いしています。





エフピコのリサイクルネットワークは全国規模で効率的に配置されています。

リサイクル工場で原料の再生



関東、中部、福山の3ヵ所のリサイクル工場
で製品の原料となるペレット・フレーク
を製造し、再び生産工場で新たな製品と
してリサイクルされます。

選別済みのトレー・容器は圧縮して
大幅に減容します

エリアごとに選別センターを配置し、選別
済み容器を圧縮してリサイクル工場へ輸
送することにより、物流による環境負荷を
低減しました。

透明
容器



発泡
トレー



リサイクルネットワーク分布地図

- トレーリサイクル工場
- トレー選別センター
- PETリサイクル工場

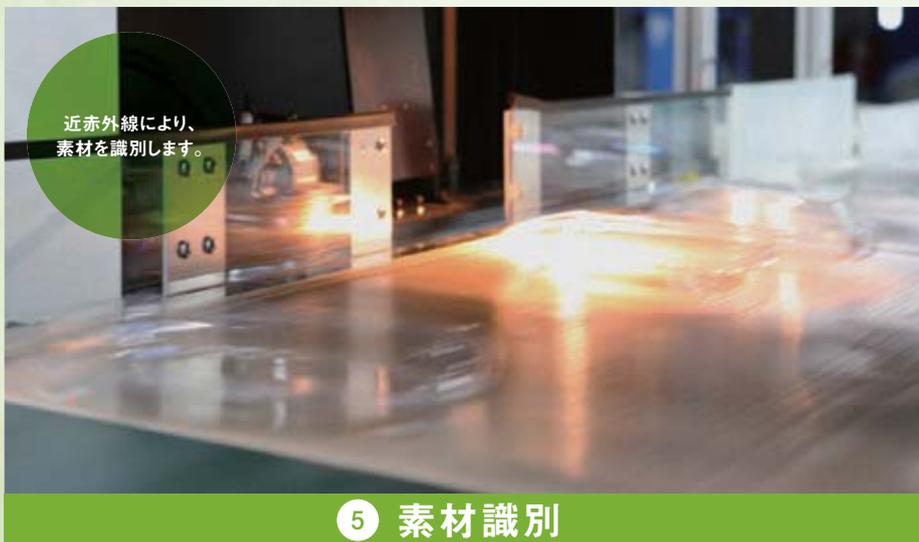


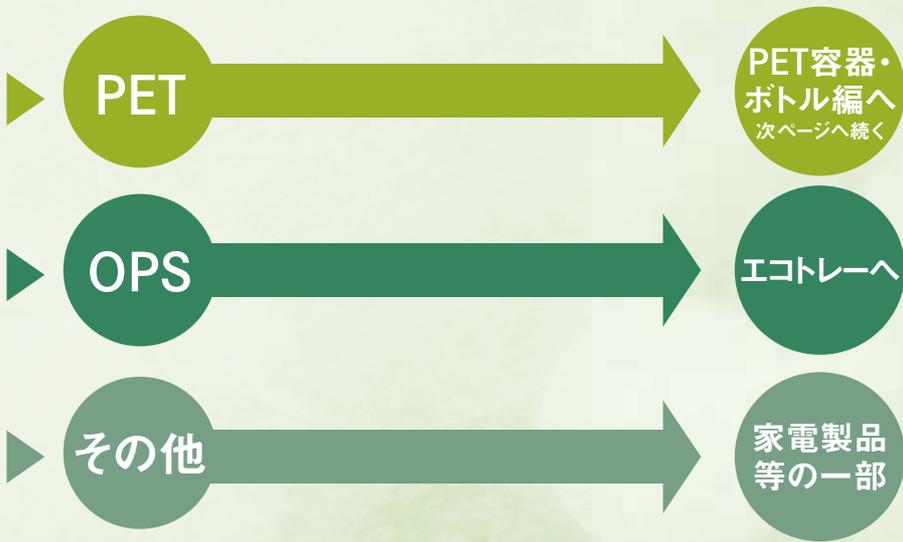
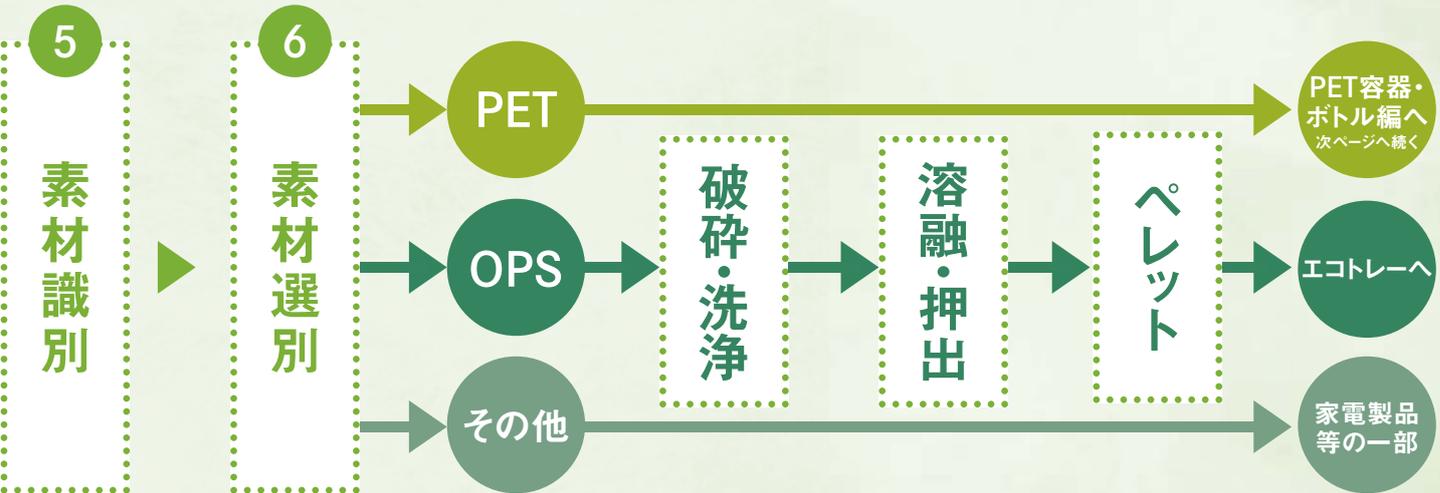
エフピコ方式リサイクル



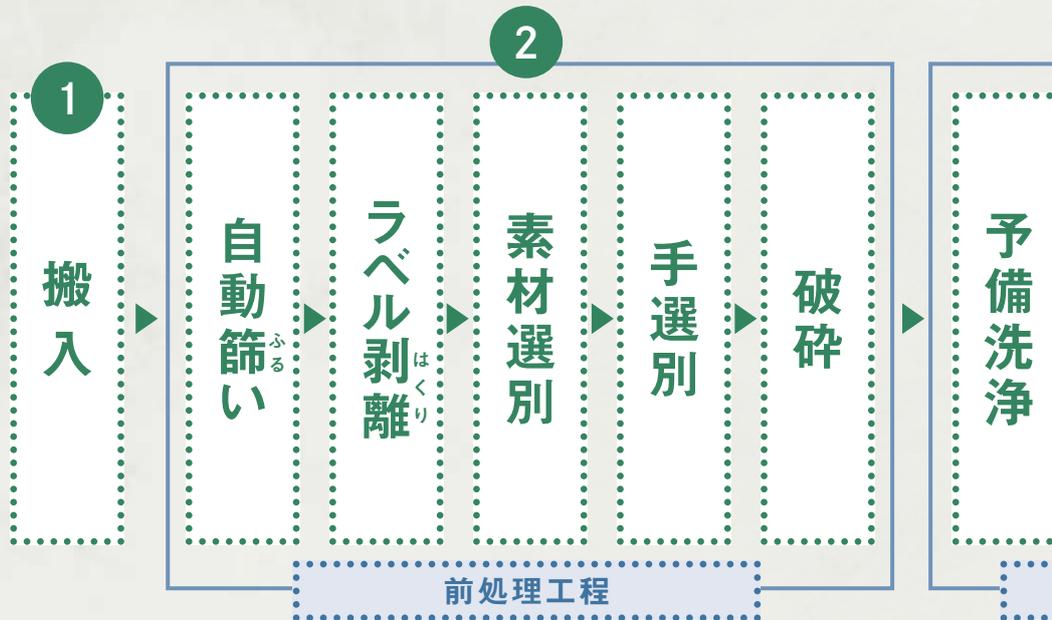


エフピコ方式リサイクル





エフピコ方式リサイクル



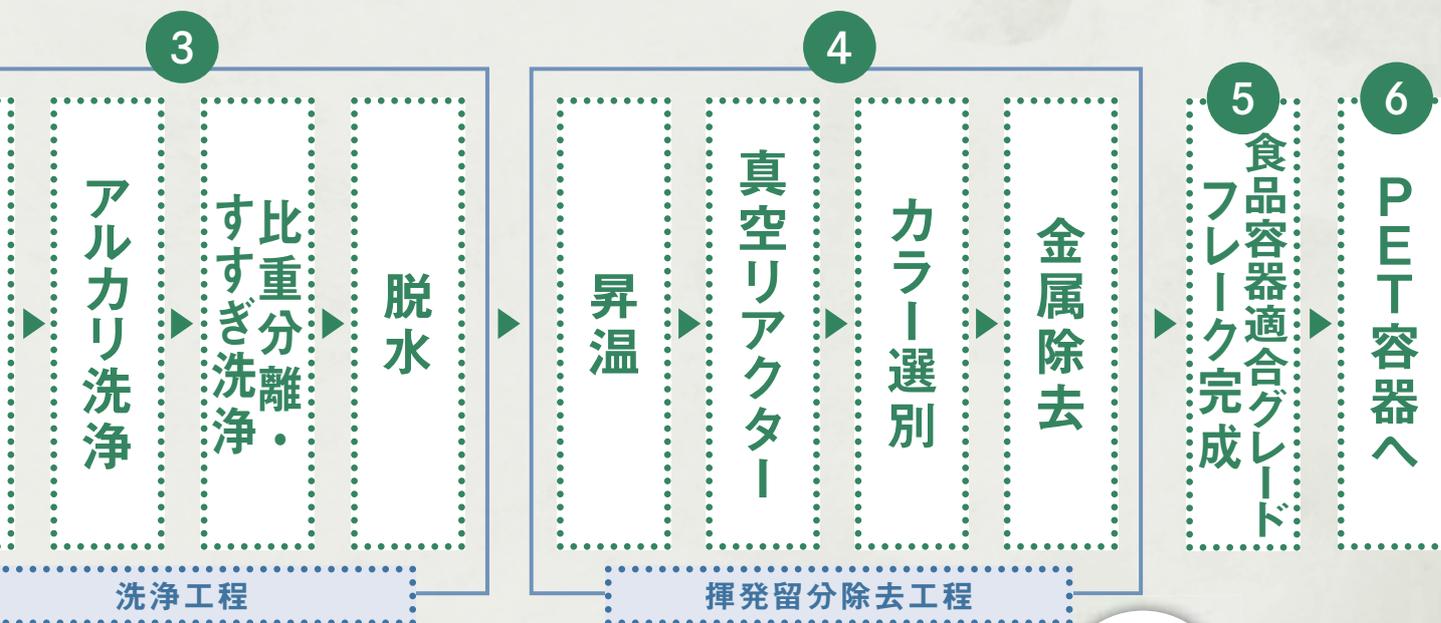


理工程



キャップとラベルの最終分離工程およびアルカリ水洗浄により不純物を除去します。

③ 洗浄工程



品質検査を経て

レードフレーク完成



エコ APET



⑥ 透明容器、たまごパックなど

エフピコ方式リサイクル

❖ 取り組みの成果

	トレー		透明容器		PETボトル	
	回収量	枚数	回収量	枚数	回収量	本数
2013年度	6,480トン	16億2,000万枚	1,713トン	1億7,130万枚	22,568トン	7億5,230万本
累計 (1990年～ 2014年3月)	11万3,472トン	283億6,800万枚	6,006トン	6億60万枚	51,505トン	17億1,680万本

社会的な波及効果

今までに節約した地球資源

石油の量:
約3億5,841万リットル



ドラム缶
約179万本分

今までに節約した社会的コスト

ゴミ回収費:
約523億円



回収車
約209万台分

今までに回収した量



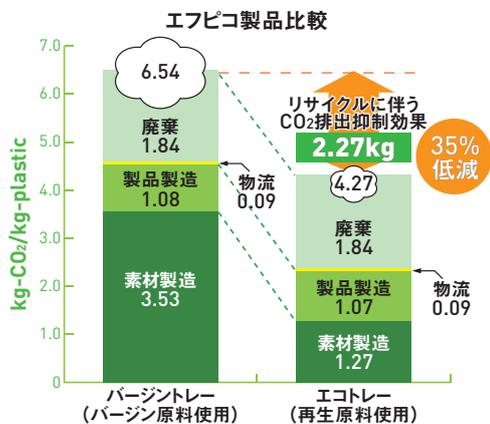
東京ドーム
約28杯分

2013年度に削減したCO₂の量

約8.9万トン

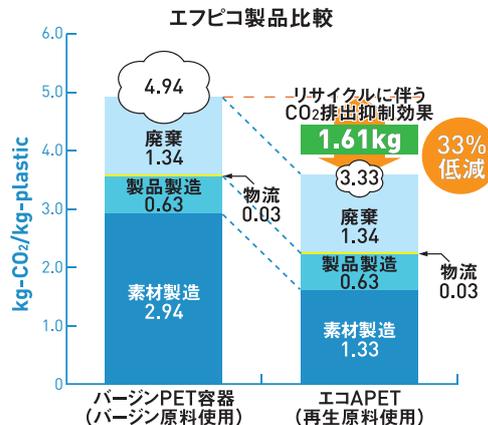
エコライフ基準をベースにしたバージン製品とリサイクル製品のCO₂排出比較

■ エコトレー



エコトレーを1kg使うと
約2.27kgのCO₂排出抑制効果が得られます。

■ エコAPET



エコAPETを1kg使うと
約1.61kgのCO₂排出抑制効果が得られます。

工場見学の受け入れ

工場見学も楽しいイベントのひとつ。貴重な体験と情報と思い出も持ち帰れます。お気軽にお越しください。

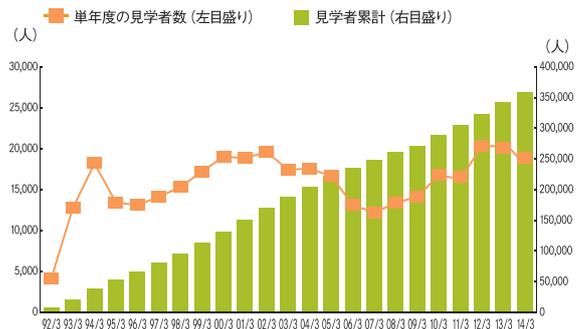


❖ 見学ツアーガイド

エフピコの工場見学ツアーでは、一部の工場では無線機を使ったガイドスを行っています。ツアーコンダクターの言葉は見学者のイヤホンを通してダイレクトに聞くことができます。見学者の目は工場内での様子に注意を払いますが、耳は聞こえてくる説明に集中できるのです。立ち止まっている時も歩いている時も、上や下を見ている時も、常に見ているものの説明を聞くことができる仕組みです。今後は全ての工場での導入を進めていく予定です。



● 見学者数の推移



年間約2万人、累計で35万人を超える外部コミュニケーションを実現しています。

工場見学のご希望は、各工場にお問い合わせください。見学受入日時：月～金（祝日を除く）9:00～16:00（各工場共通）

<リサイクル工場> 選別された容器がペレットになるまでをご覧ください。

工場名	所在地	見学受付	1団体あたり最大受入人数
関東リサイクル工場 (関東選別センター併設)	〒300-3561 茨城県結城郡八千代町大字平塚4448	関東リサイクル工場 0296-48-0400	120名
中部リサイクル工場 (中部PEリサイクル工場・中部選別センター併設)	〒503-0231 岐阜県安八郡輪之内町南波字村東511-5	中部リサイクル工場 0584-68-2036	60名
福山リサイクル工場 (福山選別センター併設)	〒721-0956 広島県福山市箕沖町127-2	本社秘書室 084-953-0001	130名

<選別センター> スーパーなどから回収された容器を選別する様子をご覧ください。

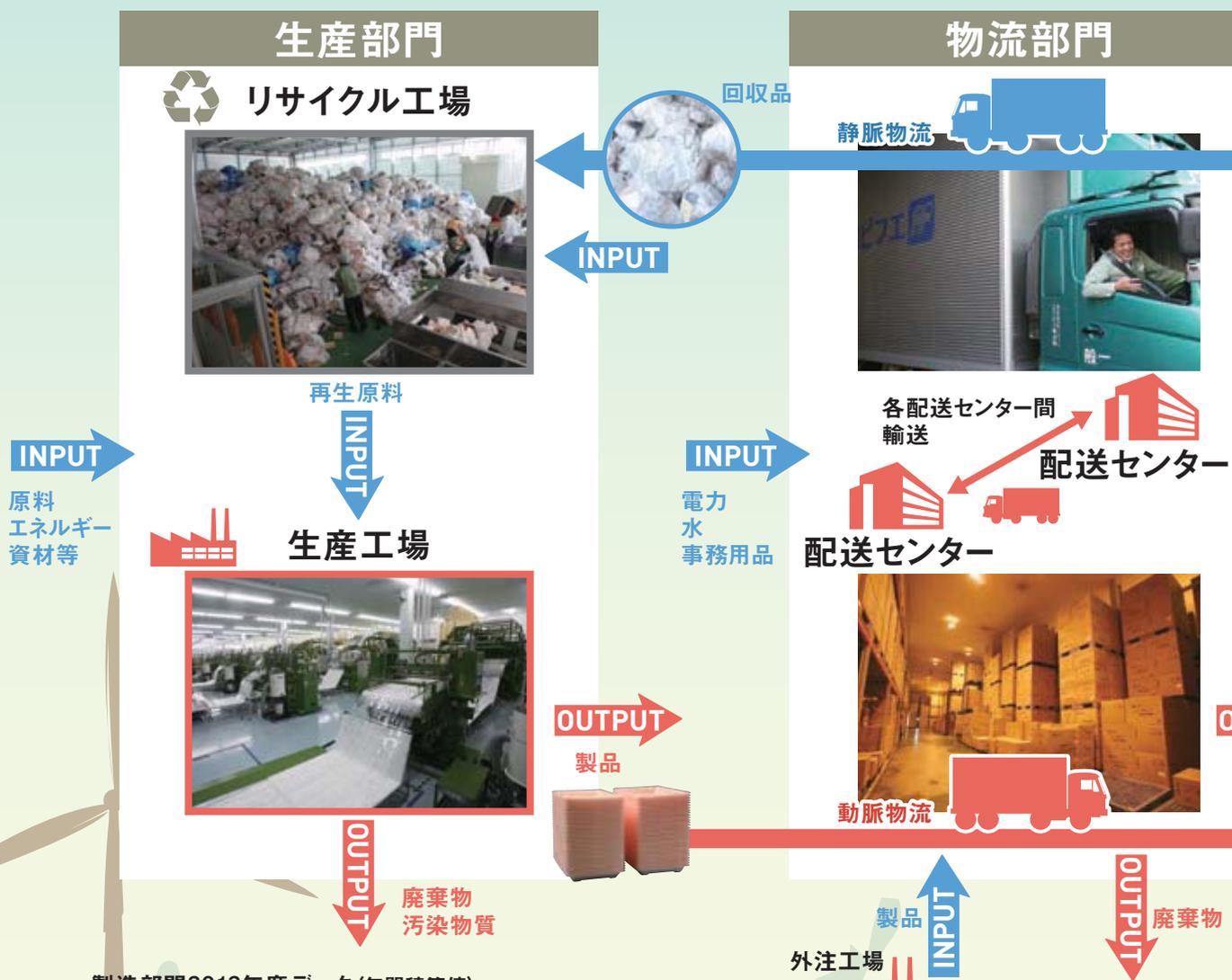
工場名	所在地	見学受付	1団体あたり最大受入人数
北海道選別センター	〒061-3241 北海道石狩市新港西1丁目778番地9	北海道選別センター 0133-75-7015	25名
山形選別センター	〒991-0061 山形県寒河江市中央工業団地162番地	山形選別センター 0237-85-3645	20名
東海選別センター	〒411-0934 静岡県駿東郡長泉町下長窪八反田307-1	東海選別センター 055-980-4571	20名
松本選別センター	〒390-0852 長野県松本市大字島立2267番地	東京本社秘書室 03-5325-7300	15名
金沢選別センター	〒920-0376 石川県金沢市福増町北204番地22	本社秘書室 084-953-0001	15名
西宮選別センター	〒651-1431 兵庫県西宮市山口町阪神流通センター 1丁目98-2	西宮選別センター 078-907-1288	45名
九州選別センター	〒842-0015 佐賀県神埼市神埼町尾崎3032-1	九州選別センター 0952-51-1028	30名

見学プログラムの一例(計:約90分)

- 1. リサイクルの流れの説明(10分)**
工場のエントランスで食品容器がリサイクルされるまでの流れを説明します。
- 2. リサイクル工程の見学(30分)**
容器が運ばれてくる場所からペレット(トレーの材料)になるまでをご覧ください。
- 3. プレゼンテーション(25分)**
エフピコが行っている食品容器のリサイクル事業を詳しく説明します。
- 4. 説明ビデオ(15分)**
プレゼンテーションで説明した内容をまとめたビデオをご覧ください。
- 5. 質問タイム(10分)**
見学者からのさまざまな質問にお答えします。

環境負荷の全体像

企業活動に伴い、さまざまな物質の移動や、環境への影響が発生します。私たちエフピコは、自然環境への負荷を可能な限り低減・抑制するために、自らの企業活動が生み出した環境への影響を、正確に把握することに努めています。ここでは、部門ごとの物質収支・エネルギー使用量をフロー図を用いて記載しました。



製造部門2013年度データ (年間積算値)

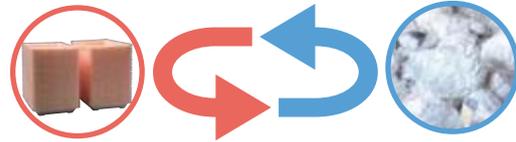
INPUT	エネルギー	電力	244,009,026 kWh
		化石エネルギー	99,068,081 MJ
	水資源	上水	227,194 m ³
		地下水	149,508 m ³
	原料 (樹脂類他)	工業用水	133,807 m ³
			158,887 t
	副資材	段ボール	28,123 t
		包装ボリ	2,393 t
	その他	潤滑油	10,629 L
		シンナー	45,598 L
	紙	2,221,000 枚	
OUTPUT	製品	製品生産重量	151,788 t
		出荷トラック台数	12,1548 台
	廃棄物		11,840 t
		煤塵	182 kg
	環境汚染物質	NOx	7,065 kg
		DXN類	1 mg-TEQ
BOD		25,616 kg	
COD		35,286 kg	
	SS	5,706 kg	

物流部門2013年度データ (年間積算値)

INPUT		
エネルギー	電力	13,578,820 kWh
	化石エネルギー	3,429,537 MJ
水資源	上水	21,691 m ³
	その他	紙
OUTPUT		
廃棄物		323 t



エフピコの物流循環システム



動脈物流

製品を迅速にお届けするために整備した物流ネットワークで、効率的に配送を行います。

静脈物流

製品を配送した帰りの便が、使用済み容器を回収しリサイクル工場へ運びます。

使用済みトレイ・透明容器の回収は
帰り便トラックを利用（静脈物流）

回収

回収

問屋



回収

販売

ユーザー (スーパーマーケットなど)



回収

販売

消費者



OUTPUT

製品

オフィス部門



INPUT

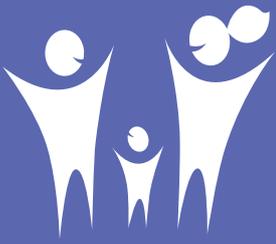
電力
水
事務用品

OUTPUT

廃棄物

オフィス部門2013年度データ(年間積算値)

INPUT		
エネルギー	電力	2,923,157 kWh
その他	紙	5,511,000 枚
OUTPUT		
廃棄物		322 t



社会

取り
お
組
け
み
る

社会のなかで様々な背景を持つ多くの人と繋がることが、本当の意味での企業の社会貢献であるとエフピコは考えます。

ステークホルダーのみならず、どこかで繋がっている方々のため、エフピコが企業市民として行っていることをご説明します。



フロアホッケー



ユニバーサルスポーツであるフロアホッケーはまだマイナーな存在ですが、その裾野は着実に広がっています。このスポーツをもっと発展させるため、微力ながらエフピコは継続してサポートを行っています。東京地区での大きな大会の開催は、その成果のひとつと言えるでしょう。

TOPICS

エフピコ障がい者従業員ファッションショーに出演

2013年12月8日、渋谷区の表参道ヒルズにおいて勇気の翼2013ファッションショー実行委員会主催による「INCLUSION 2013 FASHION SHOW」が開催され、エフピコグループの従業員5人がモデルとして出演しました。エフピコ愛バックから羽鳥美千代と藤巻克啓、ダックスから住珠代、茨城ビジョンリサイクルから太田雅人と関根吉弘。準備の段階では衣装合わせやウォーキングの練習などもあり、本格的なショーでした。最初は全員が緊張した面持ちでしたが、最後のランウェイでは笑顔と得意のポーズも披露し、すっかりファッションモデルを楽しんだ5人でした。



東京地区でのフロアホッケー大会を運営面でサポート



エフピコグループでは毎年開催されるフロアホッケーの全国大会に複数チーム出場していますが、開催地は山形であることが多く、関東地区での大きな大会は今までありませんでした。そこでエフピコは運営面でのサポートを申し出、2013年10月に初めて東京地区での大規模な大会開催のお手伝いをさせていただきました。東京を中心とした、フロアホッケーのさらなる広がりが期待されます。

エフピコRiMグランドオープン



2013年9月12日、エフピコが施設命名権を獲得した福山駅近くの商業施設「エフピコRiM」がグランドオープンしました。当日は多くのマスコミ関係者も訪れ、テレビや新聞などでも大きく取り上げられました。福山の新しい顔として、またエフピコと市の深い絆の証として、これからも多くの来場者に恵まれることを願っています。

❖ くるみんマーク認定

エフピコは2008年に広島労働局より「基準適合一般事業主認定通知書」が授与され、『子育てにやさしい企業』として公的に認められました。



❖ インターンシップの受け入れ

エフピコでは広島県との協働により、広島県ものづくりインターンシップ事業において理工学系のインターンシップ大学生の受け入れを行っています。2週間におよぶ研修を通して大学生の皆さんに、社会人への第一歩を学ぶ機会を提供しています。



障がい者の自立と社会参加

～障がい者がいきいき働ける“インクルージョン社会”を目指して～

知的障がい者の自立と社会参加を推し進めている日本フロアホッケー連盟理事長の細川佳代子氏をお迎えし、障がい者がいきいきと気後れすることなく生活できる社会の実現について、社長の佐藤がお話を伺いました。

佐藤 守正

株式会社エフピコ
代表取締役社長兼最高執行責任者

細川 佳代子 氏

NPO法人勇気の翼インクルージョン2015理事長
公益財団法人スペシャルオリンピックス日本名誉会長
特定非営利活動法人日本フロアホッケー連盟理事長

❖ 必然的だった両者の出会い

佐藤 細川さんにお会いする機会を得たのは10年ほど前でしたね。

細川理事長（以下、細川） そうでした。知人に佐藤さんを紹介されました。

佐藤 あれは確か、長野で開催されるスペシャルオリンピック[※]の世界大会を盛り上げるための「500万人トーチラン」に向けて頑張っていた頃でしたね。

細川 そうです。あの時は私も必死でした。2005年に日本で初めて開催されるスペシャルオリンピックを成功させたいという一心で。知的障がい者によるスペシャルオリンピックは、当時の日本ではまったく注目されていませんでしたから。

佐藤 初めて細川さんにお会いした時、「なんてパワフルな人なんだ!」とびっくりしたのを覚えています。本当に、もの凄い情熱で日本でのスペシャルオリンピック開催に取り組んでいらっしゃいました。

細川 この世界大会をなんとか成功させたい、障がいのある人たちに社会参加して欲しい、障がい者をいつまでも陰の存在とさせておくわけにはいかない。そんな思いで頑張っていました。でもおかげさまで、長野の世界大会は大成功に終わり、日本でも多少は注目されるようになったかも知れません。

❖ 情熱の源

佐藤 そもそも細川さんが知的障がい者の自立をサポートするようになったきっかけは何なのでしょう。

細川 人口の約2パーセントは知的障がいのある子供として生まれてきます。それは、その子の周りにいる人たちに優しくや思いやりという人間にとって一番大切な心を教えるために神様が与えてくださるからで、彼らは神様からの贈り物だという話がある牧師さんから聞いたことがありました。「かわいそうな子供」とか「何もできない子供」として、ただ保護したり隠したりしてしまったり彼らが持つ本来の可能性を閉ざすことになるとその牧師さんは言います。だから知的障がいのある子供たちが持っている能力や可能性を発揮する機会の必要性を説いたのです。私はその話にもものすごく共感を覚えたのですが、それがちょうどスペシャルオリンピックについての記事を読んだ頃でした。地元の熊本の新聞に米国ミネソタ州で開催された第8回大会に参加した熊本の女の子の記事がありました。その記事が私の興味を惹き付けたんです。

佐藤 どのような内容だったのでしょうか。

細川 体操競技に出場したとも子ちゃんという10歳の女の子が銀メダルを獲ったとありました。それで私は最初に、そんな凄い子供が熊本にいるのかと思ったのです。その時の私は、通常のオリンピックを見るのと同じ感覚で「凄い」と感じていたわけです。

※知的発達障がいのある人の自立や社会参加を目的として、日常的なスポーツプログラムや成果の発表の場としての競技会を提供する国際的なスポーツ組織。1968年に第1回の夏季国際大会がアメリカのイリノイ州で開催された。



社長対談

佐藤 でも実際にはそうではなかった。

細川 その通りです。記事を読み進んでいくと、その子がメダルを獲った理由が分かりました。体操の技能の素晴らしさで表彰されたのではなく、最後まで諦めずに頑張ったからメダルをもらったというわけです。

佐藤 評価の基準が違うということですね。

細川 健常者が競うオリンピックは、「より強く、より高く、より速く」という風に他者に勝つことが重んじられます。でも知的障がい者によるスペシャルオリンピックでは、“昨日の自分に克つ”ことが表彰の対象となるのです。私がオーストリアの大会で実際に見た例が分かり易いと思うので紹介します。かっちゃんという11歳の自閉症の男の子がフィギュアスケートの一番競技レベルの低い部門にエントリーしました。随分と練習を重ねて本番に臨んだのですが、いざ本番となると怖くなってしまったようで、リンクに上がれなかったのです。それで彼は失格となりましたが、その3日後の決勝ラウンドが行われる日、大会本部はかっちゃんにもう一度チャンスをくれたのです。そうしたら彼は勇気を振り絞ってリンクに上がり、見事に演技をしたのです！私はかっちゃんのお母さんと一緒に泣きながら喜びました。

佐藤 素晴らしいですね。チャンスを与えた大会本部も、それに応えたかっちゃんも。

細川 そして表彰式の時、失格のかっちゃんは表彰してもらえないと思っていたのに、失格を表す白い色のリボンについたメダルをもらったのです。さらに、特別努力賞もいただきました。

佐藤 それは大会本部による素晴らしい計らいですね。

細川 いいえ、それは特別な計らいではなく、スペシャルオリンピックのルールとして決まっていることなのです。努力を



した人は全員表彰されるべきという理念に則った。かっちゃんは“昨日のかっちゃんに克つた”から表彰されたのです。このようなスペシャルオリンピックとの出会いがあり、この競技を日本でも普及させることが私の使命であると思うようになりました。

佐藤 それがパワフルな細川さんの情熱の源となっているわけですね。納得しました。

❖ エフピコとフロアホッケー

細川 2005年に長野で開催したスペシャルオリンピックが終わった後、私は次に、ユニバーサルスポーツであるフロアホッケーの普及に力を注ぐことにしました。その頃、佐藤さんに障がい者と健常者のコミュニケーションを良くする方法のひとつとしてのフロアホッケーをお薦めしました。

佐藤 エフピコが障がい者の雇用をスタートさせたのは28年前ですが、そんなわれわれでも、障がいのある従業員に対する理解が不足しているのではないかと感じていました。うまくコミュニケーションを促進する方法がないか模索していたわけです。

細川 障がいのある人との距離をすぐに縮めるというのは難しいことだと思います。私だって最初は偏見から免れませんでしたから。

佐藤 最初に細川さんが制作した「エイブル」という映画のDVDを障がい者が働く事業所の健常者従業員に見てもらったところから始めました。おかげさまでエフピコグループでは4年ほど前から社内のレクリエーション活動としてフロアホッケーを楽しんでいます。チームはすべて障がい者と健常者の混合です。最初は特例子会社のチームだけでしたが、就労継続支援A型事業の愛バックという会社の事業所も次々と加わり、加速度的にチームが増えていきました。現在では全国に15チームあります。

細川 日本フロアホッケー連盟理事長としては、とても喜ば



しいですね(笑)。

佐藤 健常者の従業員と一緒にプレーするだけでなく、試合に出る障がい者選手の身支度のサポートをしたり、審判の資格を取ったりなどと自発的に行動してくれています。基本的に私は参加の強制は一切せず、「面白いと思うならやってみて」という姿勢でいます。楽しんでもらえなければ意味がないですからね。今ではフロアホッケーを始めてみて本当に良かったと思っています。

細川 障がい者の雇用を義務だと感じている企業は少なくありません。障がい者を雇用しても、健常者が働く場所から隔ててしまいます。障がい者と健常者を区別する壁は昔と同じように存在しているのです。その壁を取り除くのが私の使命だと思っています。

❖ インクルージョン社会の実現を目指して

細川 一昔前までは、知的障がい者を人目に付かないところに隠して、社会から隔離してしまうということが普通に行われていました。でも障がいのある人たち一人ひとりに、その人だけに与えられた能力と個性があるわけです。だからそれらを自己実現できるような社会に変えていきたいのです。障がいのある人が気後れすることなく生活ができる“包み込む社会”の実現を目指して「勇気の翼インクルージョン2015」というNPO法人を立ち上げました。

佐藤 エフピコの障がい者雇用の取り組みについて話すと、それを福祉事業として捉える人もいます。でもわれわれは、これを福祉とは考えていません。利益を上げるための事業なんです。そうでなければ長続きしませんから。障がいのある従業員を適材適所に配置し、健常者と仕事を棲み分けしながらも一緒に協力して働く。いろいろな方の協力にも恵まれ、エフピコではなんとかそれが出来ています。

細川 エフピコさんがやっているような成功例があると私も勇気づけられます。他の企業が目指す良い事例になりますから。それと、フロアホッケー活動も是非とも続けてください。

佐藤 今年(2014年)は10月にフロアホッケーの全国大会を東京で開催するわけですが、細川さんのパワーに押されて大会事務局のお手伝いをしています(笑)。

細川 ボランティアでやっていただいて、本当に感謝しています。わたしたちが主宰するファッションショーのようなイベントにこれからも参加してください。障がいのある人たちが参加できる機会をたくさん設けますから。

佐藤 わかりました。これからも同じ方向を向いて一緒に頑張っていきたいと思います。



エフピコグループのフロアホッケーチームは山形、茨城、東京、岐阜、福山、広島、高知、佐賀に計15あります。



休憩時には障がい者、健常者の分け隔てない会話の花が咲きます。



勇気の翼インクルージョン2015主催のファッションショーでモデルを務めたエフピコグループの従業員。



東京で開催された初めての大きなフロアホッケーの大会でエフピコも運営面で協力しました。

株主とのかかわり



エフピコは公明正大で高い透明性を経営方針のひとつとしています。社外取締役の客観的な視点も取り入れ、株主総会を開催しています。

❖ 企業価値の拡大

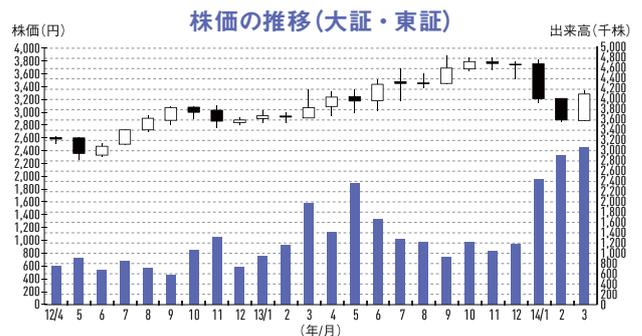
「もっとも高品質な製品」を「どこよりも競争力のある価格」で「必要な時に確実にお届けする」という3つの基本方針に則り、株主本位の経営を実践しています。グループ経営の諸施策を着実に実行することにより、企業価値を高め、1株当たり純利益225円を目標としています。

❖ 継続的に安定した配当

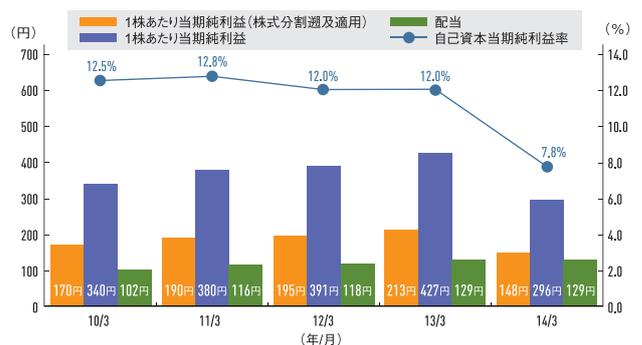
エフピコは、株主の皆さまへの利益に見合った利益還元を最重要課題のひとつと考え、収益力の向上と財務体質の強化を図りながら、継続的かつ安定的な配当を実施していくことを基本方針としています。このような方針のもと、当事業年度は1株あたり129円（うち第2四半期末配当金64円）の配当を実施しました。

❖ 適正な情報開示

エフピコは常に適時・適正・迅速・公平に企業情報を開示しています。有価証券報告書・決算短信・決算説明会資料・プレスリリースなどはホームページのIRコーナーで開示しています。また、機関投資家やアナリストに対しては、株主総会や年2回の決算説明会以外にも、個別ミーティングや生産・物流・リサイクル施設見学会などを実施し、業績や事業内容をより理解していただけるよう努めています。



※ 2013年6月まで大阪証券取引所、2013年7月以降は東京証券取引所における株価及び出来高を示しております。
 ※ 2014年4月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。2012年、2013年に関しては、当該株式分割が2012年に行われたものと仮定して株価及び出来高を算定しております。



(注) 2014年4月1日付で、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。

<http://www.fpco.jp/ir/>

- 業績ハイライト
- IR資料
- プレスリリース
- アナリスト説明会 (ビデオ映像等)
- 株主総会のご報告
- 株式情報
- 電子公告

消費者とのかかわり



早稲田大学で開催された「こどもエコクラブ」に参加しました。消費者の方々と触れ合える機会をいつも探しています。

❖ 各種イベントへの参加

エフピコでは、消費者の方々との直接的なコミュニケーションを求めて、様々なイベントなどに積極的に参加しています。環境がテーマのイベントが多くなりますが、いろいろな立場や意見を持った方々との触れ合いは、エフピコのCSR活動を展開する上での貴重な情報源となっています。

❖ 出前授業の実施

エフピコの環境対策室では環境教育の出前授業を実施しています。遠方などの諸事情で工場見学に来ることが困難な小・中・高等学校に向き、環境問題をテーマにエフピコ方式のリサイクルを紹介しています。ビデオの放映や出来上がったベレットなどの実物を見せたりすることにより、工場見学を疑似体験していただけるよう工夫しています。2013年度は14ヵ所を訪問し、延べ1,556人の聴講者数となりました。



● エフピコが2013年度に参加した主なイベント

日付	イベント名	開催地
2013年6月1日	府中環境まつり2013	東京都
2013年6月2日	平成25年度「環境の日」ひろしま大会	広島県
2013年7月23日	トマトアグリフードフェア 2013	岡山県
2013年9月6日、7日	とっとり産業フェスティバル2013&鳥取環境ビジネス交流会2013	鳥取県
2013年10月6日	リサイクルフェア in くらしき2013	岡山県
2013年10月13日	三和フリースペース日曜日	広島県
2013年10月16～18日	エコテック2013	福岡県
2013年10月20日	福山市「第12回リサイクルフェスタ」	広島県
2013年10月20日	長泉町福祉健康まつり2013	静岡県
2013年10月26日	第8回 おかやま・もったいない晴れの国フォーラム	岡山県
2013年10月26日、27日	じばさんフェア2013	広島県
2013年10月27日	やまがた環境展2013	山形県
2013年11月7日、8日	第27回ビジネスEXPO	北海道
2013年11月11日、12日	北海道認定リサイクル製品フェア	北海道
2013年11月22日、23日	エコイノベーションメッセ 2013 in ひろしま	広島県
2013年11月27日	中四国環境ビジネスネット (B-net) フォーラム2013	岡山県
2013年12月8日	ヒューマンフェスタ2013ひろしま	広島県
2014年1月26日	第41回一宮市消費生活フェア	愛知県

● 出前授業

日付	学校名	開催地
2013年5月30日	福山市立曙小学校	広島県
2013年6月20日	川越市立野田中学校	埼玉県
2013年6月25日	広島市立中山小学校	広島県
2013年7月8日	広島市立原南小学校	広島県
2013年7月8日	広島市立三入東小学校	広島県
2013年9月2日	広島市立織町小学校	広島県
2013年9月3日	広島市立翠町小学校	広島県
2013年9月3日	広島市立本川小学校	広島県
2013年9月13日	呉市立川尻小学校	広島県
2013年10月23日	広島市立仁保小学校	広島県
2013年11月16日	尾道市立原田中学校	広島県
2014年1月15日	広島大学附属高等学校	広島県
2014年2月6日	岐阜県立不破高等学校	岐阜県
2014年2月19日	広島市立千田小学校	広島県

お客様とのかかわり



エフピコの営業スタッフは、お客様から信頼していただけるようになることを目標のひとつとして努力を重ねています。

❖ キッチンスタジオを使っでの商品アピール

エフピコでは定期的にお客様をキッチンスタジオにお招きして各種セミナーを開催しています。ユーザー様を対象にした「商品提案会」やディーラー様を対象にした「新製品勉強会」、「環境セミナー」など、容器の使い方や売り方の提案、市況の変化など、最新の情報提供を目的に実施し、毎回好評をいただいています。セミナー会場内の冷陳ケースには実際に食品をバックした商品を陳列し、商品づくりや陳列に関するアイデアの提供にも努めています。

2013年5月に移転した大阪支店にも東京本社同様のキッチンスタジオを設置しました。厨房機器、冷陳ケース、オーディオ環境、打ち合わせスペースなど、充実した設備となっています。今後、西日本エリアのお客様に対しては、こちらから情報を発信してまいります。



❖ 年に1度の商品総合プレゼンテーション「エフピコフェア」

お客様とのコミュニケーションの場としてエフピコが力を入れているのが、年に一度東京で開催する「エフピコフェア」です。3日間の開催で、例年約13,000人の来場者をお迎えしています。広い展示場の利点を活かし、会場内に売り場を再現して行うこのフェアは、エフピコの商品力をアピールする絶好の機会となっています。お客様と一緒に売場作り方や商品の売り方を考えるコミュニケーションの場でもあり、次年度における商戦を共に戦う上での決起集会とも言えるかもしれません。

2014年3月に開催された今年度のフェアでの目玉は、耐熱透明容器の新製品でした。生の食品を容器に入れ、そのまま電子レンジで加熱し、取り出してすぐに食べることのできる商品はコンビニやスーパーなどの売場に大きな変革をもたらす可能性を持っています。

この商品をアピールするため、エフピコフェアとしては初めてとなる大規模な試食会を実施しました。試食メニューは「はまぐり」、「鯛しゃぶ」、「豚しゃぶ」、「蒸し野菜」、「味付け肉」の5種類。容器に入った食材を実際にその場で召し上がっていただくことで、この容器の利便性や優位性を感じていただけたものと思います。これからもより分かり易く、五感で納得していただけるようなプレゼンテーションを行ってまいります。



障がい者の雇用

❖ 障がい者雇用の概要

2014年3月末時点でのエフピコグループによる障がい者雇用数は下のようになっています。国が定めた2%という障がい者の法定雇用率を大きく上回る数字となっています。これは最初に障がい者雇用をスタートした28年前から現在に至るまで、地道に努力を重ねてきた成果とも言えます。エフピコ子会社で運営する事業所は全国に19ヵ所(次ページ)あり、その他にも事業提携先が4ヵ所あります。エフピコグループの障がい者従業員は誰もが会社にとって貴重な戦力として働いており、同じ労働環境(給与体系、福利厚生など)で雇用されています。

障がい者
雇用人数

372名

障がい者雇用率
換算数

647名

障がい者
雇用率

16.0%

TOPICS



独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構の主催による平成25年度の広島県における障害者雇用優良事業所・優秀勤労障害者等の表彰において、エフピコグループの2名が「優秀勤労障がい者」に選ばれました。2人の職場での普段からの頑張りが評価されたものです。このような賞は他の障がいのある従業員にとっても大きな励みであり、エフピコグループにとっての誇りでもあります。

❖ 2つの雇用形態

エフピコグループで働く障がい者従業員は、障がいの度合いや性質に合わせて以下の2つの組織のどちらかに所属しています。どちらの場合でも健常者スタッフのサポートにより、障がい者が安定して働ける環境を確保しています。

特例子会社

容器成形 回収容器選別

株式会社エフピコの特例子会社として厚生労働大臣から認定を受け、障がい者の安定的な職場の確保、社会への参加を基本に、健常者と助け合って働いていける場を提供。障がい者に配慮した職場環境を整備するとともに、一人ひとりの無限の可能性を引き出し、その能力を大きな戦力として活かしています。

就労継続支援 A型事業

容器組立・ウレタンマット・
シール貼り
回収容器選別 パッケージ事業

長年、社会福祉・地球環境問題にグループをあげて取り組んできた株式会社エフピコが、障がい者の就労の可能性と職域を広げていくことを目的に設立。営利法人としては日本初となる障害者自立支援法(障害者総合支援法)による「就労継続支援A型」の事業所認定を受けています。

❖ 2種類の事業内容

業務内容は大きく分けて2種類。スーパーマーケットなどで回収した使用済み容器の選別事業と簡易食品容器の製造(成形、組立、ウレタンマット貼りなど)となっています。





エフビコ愛バック(株)北海道工場



エフビコ愛バック(株)北海道選別センター



エフビコ愛バック(株)山形工場



エフビコ愛バック(株)山形選別センター



エフビコ愛バック(株)茨城工場



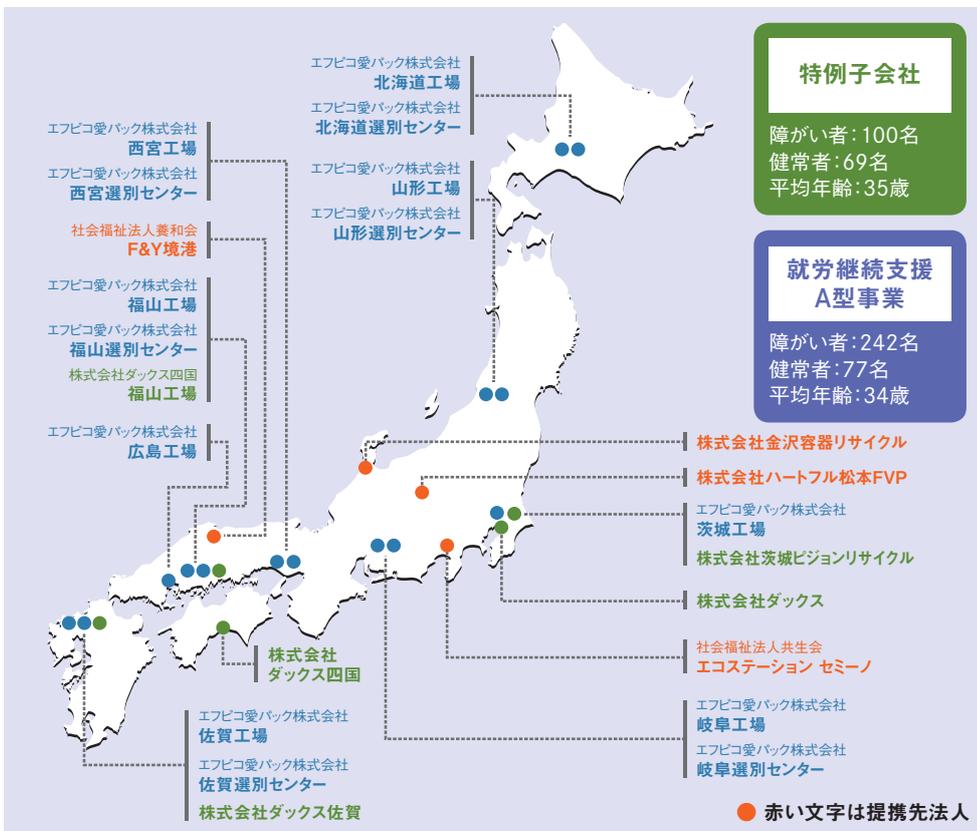
(株)茨城ビジョンリサイクル



(株)ダックス



エフビコ愛バック(株)岐阜工場



エフビコ愛バック(株)岐阜選別センター



エフビコ愛バック(株)西宮工場



エフビコ愛バック(株)西宮選別センター



エフビコ愛バック(株)福山工場



エフビコ愛バック(株)福山選別センター



(株)ダックス四国福山工場



(株)ダックス四国



エフビコ愛バック(株)広島工場



エフビコ愛バック(株)佐賀工場



エフビコ愛バック(株)佐賀選別センター



(株)ダックス佐賀

従業員とのかかわり



社員のプライベートライフの充実は、仕事をする上での心身の充実度に比例するはずであると考えています。



❖ プライベートライフ 充実のサポート

野球、ヨット、テニス、フロアホッケーなど社員が趣味で行っているレクリエーションを活動費の提供という形でサポートしています。スポーツ以外の趣味、また歓迎会なども補助の対象となっています。また、全国の宿泊施設や娯楽施設の割引を行う福利厚生プログラムも用意し、社員が仲間や家族と楽しい時間を過ごしてもらえるようなサポートを提供しています。

❖ 社内コミュニケーションの促進

エフピコでは同じ部署内だけでなく、部署やグループ企業の垣根を越えた社員同士のコミュニケーションを大切にしています。社員旅行やレクリエーションなどのイベントを楽しんでもらうだけでなく、様々な機会を通じて社員同士が親睦を深めることを願っています。今どき浴衣を着ての社員旅行の

ひとコマは珍しいと思われるかもしれませんが、それもエフピコスタイルのひとつと言えます。



❖ 子育て支援



広島労働局長より『子育てにやさしい企業』として認定されています。女性社員の育児休暇取得率は100%ですが、男性社員による育児休暇取得を増やすための環境整備に取り組んでいます。

❖ 海外研修制度

毎年秋に4泊6日の日程でハワイへの研修旅行を実施しています。参加しているのは選ばれたグループ社員約30名。アメリカ仕様のスーパーマーケットなどを視察して海外の食品流通事情に触れるという目的以外にも、南国ハワイならではのアクティビティも楽しめます。お互いが初対面のグループ社員も多く、親睦を深める機会にもなっています。



エフピコのあゆみ

沿革・表彰

	1月	ホームページを開設
	3月	(財)クリーン・ジャパン・センター主催「再資源化貢献企業表彰事業」にて「通商産業省環境立地局長賞」受賞
	5月	代表取締役社長小松安弘が「藍綬褒章」を受章
	6月	福山リサイクル工場が「ひろしま環境賞」受賞
	8月	「HMRトップセミナー」を開催
1997	9月	社団法人大垣青年会議所主催「西美濃共創アワード'97」にて「こんな会社を誇りにしま賞」受賞
	10月	日本食糧新聞主催「第6 回日食環境資源協力賞」受賞 「リサイクル推進功労者等表彰事業」にて福山リサイクル工場が「リサイクル推進協議会会長賞」受賞
	12月	新素材容器「エクスター」を開発し、一貫生産のため福山工場(広島県福山市)を竣工
1998	10月	福山配送センターに新倉庫竣工
	2月	代表取締役社長小松安弘が「第19回毎日経済人賞」を受賞
	4月	エフピコモダンバックにて、カタログ販売を開始
1999	10月	新素材容器「ハイスター」を開発 「リサイクル推進功労者等表彰事業」にて「内閣総理大臣賞」受賞
	1月	特例子会社(株)ダックス四国本社工場(高知県南国市)を竣工
	3月	東京証券取引所市場第二部に株式上場 関東つくば工場(茨城県下妻市)を稼働開始
2000	7月	関東下館工場(茨城県筑西市)を稼働開始
	10月	近畿亀岡工場(京都府亀岡市)を稼働開始
	2月	関東第2配送センター(茨城県八千代町)を稼働開始
2001	7月	「第4回エコライフびわ湖賞」にて「アイディア部門優秀賞」受賞
	11月	東京支店を東京本社に昇格し、福山、東京2本社制に 東京本社にキッチンスタジオを開設
2002	2月	更生会社中国パール販売(株)及び更生会社バックドール(株)の再建スポンサーとして会社更生手続き開始
	1月	更生会社中国パール販売(株)及び更生会社バックドール(株)の更生計画認可決定(バックドール(株)は2003年5月更生手続終結、中国パール販売(株)は2005年5月更生手続終結)
2003	7月	東日本ハブセンター(茨城県八千代町)完工 山形工場(山形県寒河江市)稼働開始
	11月	「ウエステック大賞2003」にて「事業活動部門賞」受賞
2004	3月	東日本サンプルセンター(茨城県坂東市)、西日本サンプルセンター(広島県福山市)を開設
	5月	東北配送センターを山形工場(山形県寒河江市)隣接地へ移転
2005	9月	東京証券取引所市場及び大阪証券取引所市場第一部に株式上場 「愛・地球賞(財)日本国際博覧会協会・日本経済新聞社主催」を受賞
	6月	サンプル受付センターを稼働開始 特例子会社(株)ダックス佐賀(佐賀県吉野ヶ里町)設立
2006	9月	(株)ダックス四国が独立行政法人高齢・障害者雇用支援理事長賞受賞
	10月	就労継続支援A型子会社を目的とする広島愛バック(株)(現エフピコ愛バック(株))設立
	12月	「財)小松育英会」設立
2007	2月	関東下館第2工場(茨城県筑西市)を稼働開始
	3月	就労継続支援A型子会社を目的とする「エフピコ愛バック(株)」設立
	4月	「第1回容器包装3R推進環境大臣賞」にて「製品部門最優秀賞」受賞
1962	7月	福山パール紙工(株)設立。広島県福山市古宮町(現在の霞町)に本社を設置し、PSP成型加工を開始
1968	3月	業容発展に伴い、本社を所在地(福山市曙町)に移転
1971	1月	ウッド組立食品容器の製造を開始
1972	4月	福山配送センター(広島県福山市)を開設
1975	9月	総合包装用品販売のチェーン店「モダンバック」を福山市に設立
1976	6月	自社製品の展示会「パールフェア(現エフピコフェア)」第1回目を開催
1979	7月	配送体制強化のためエフピコ物流(株)を設立
1980	1月	物流の合理化、効率化のため福山第一配送センターを開設。このころからトレー容器のゴミ処理問題が発生、使用済みトレーの回収をいち早く開始する
1981	6月	食品容器のファッション化に対応して、カラー食品容器の製造販売を開始
1982	3月	高級食品容器製造のため、定位置成型技術を開発
	4月	東京支店(東京都練馬区)を開設
1983	10月	大型ホストコンピュータを導入し、EDI(電子データ交換)による受発注を開始。PSP製電子レンジ用耐熱容器を開発
1984	5月	代表取締役社長小松安弘がPSP成型加工工業組合理事長に就任
	1月	東京配送センター(千葉県船橋市)を開設
	2月	総合展示会「パールフェア」を初めて東京で開催 大阪支店(大阪府大阪市)を開設
1985	5月	福山第二配送センターを開設
	6月	総合展示会「パールフェア」を初めて大阪で開催
	11月	関東工場(茨城県八千代町)稼働
	1月	ソリッド食品容器の原反生産から成型加工までの一貫生産を開始
	4月	100%出資の子会社エフピー商事(株)(現エフピコ商事(株))を設立
1987	9月	大幅な省人化を果たす笠岡工場(岡山県)を竣工
	12月	フロンガスを使用したPSPを全廃
1988	3月	カイズファイバー社(米国)を通じ、南ア・ホルデンリミテッド社と技術供与契約を締結。関東配送センターを開設
	12月	ワシントンで開かれたFPI(全米食品サービス容器協会)総会に代表取締役社長小松安弘が出席し、地球環境問題などについて演説をおこなう
	1月	CIを導入、商号を株式会社エフピコに改める
1989	7月	中部配送センター(岐阜県輪之内町)を開設
	11月	広島証券取引所に株式上場
1990	12月	東北配送センター(山形県寒河江市)を開設
1991	2月	大阪証券取引所市場第二部に株式上場
	4月	バルディーズ研究会「会員部門最高得点票賞」受賞
1992	10月	「リサイクル推進功労者等表彰事業」にて東北リサイクル工場が「平成4年度リサイクル推進功労者賞」受賞
1993	3月	(財)クリーン・ジャパン・センター主催「再資源化貢献企業表彰事業」にて「クリーン・ジャパン・センター会長賞」受賞
1994	10月	関西配送センター(兵庫県西宮市)を開設
1995	4月	物流業務全般をエフピコ物流(株)に移管
	2月	「兵庫県環境にやさしい事業者賞」受賞
	4月	第22回「エフピコフェア96」を東京で初開催
1996	5月	大阪支店を大阪府豊中市に移転
	6月	「第4 回横浜環境保全活動賞」受賞
	10月	「リサイクル推進功労者等表彰事業」にて中部リサイクル工場が「通商産業大臣賞」受賞

エフピコのあゆみ

		エフピコ八千代センターを稼働開始
2007	8月	エフピコ愛バック(株)佐賀工場(佐賀県神崎市)を稼働開始 「ものづくり大賞」にて『経済局長賞』受賞
	9月	エフピコ愛バック(株)岐阜工場(岐阜県輪之内町)、茨城工場(茨城県坂東市)を稼働開始
	10月	エフピコ愛バック(株)西宮工場(兵庫県西宮市)、山形工場(山形県寒河江町)を稼働開始
	11月	「財小松奨学財団」設立
	12月	本社新社屋(広島県福山市)竣工
2008	2月	退職者の親睦団体である「エフピコ松栄会」設立
	8月	日本経済新聞社と(株)ニューオフィス推進協議会が主催する「第21回日経ニューオフィス推進賞」にて「中国ニューオフィス推進賞」を受賞
2009	3月	第1回ふくやま環境賞『事業所部門』受賞
	5月	西関東ピッキングセンター(東京都町田市)稼働
	6月	大洋興業(株)より包材部門を事業譲受 代表取締役会長 小松安弘が「第11回企業家賞」を受賞
	8月	(株)茨城ビジョンリサイクルを設立
2010	10月	(株)富山陽成社より日本パール容器(株)を事業譲受して、エフピコ日本パール(株)を設立
	4月	ユカ商事(株)より包装資材等の商品仕入事業を譲受
	6月	(株)アルライト(現エフピコアルライト(株))を連結子会社化 (株)アイ・ロジック福山ピッキングセンター(広島県福山市)開所
2011	10月	インターバック(株)(現エフピコインターバック(株))を連結子会社化
	12月	ダイヤフーズ(株)(現エフピコダイヤフーズ(株))を連結子会社化
2012	2月	「エコマークアワード2010」にて『金賞』受賞 代表取締役会長 小松安弘が「第9回渋沢栄一賞」受賞
	5月	アイ・ロジック中部ピッキングセンター(岐阜県輪之内町)を竣工
	9月	仙台営業所(宮城県仙台市)を移転統合
	12月	エフピコ愛バック(株)広島工場が「独」高齢・障害者雇用支援機構より「優秀勤労障害者」部門で表彰受賞
	11月	(株)エフピコ及びエフピコ物流(株)がエコシップ・モダリティシフト優良事業者として「国土交通省海事局長賞」を受賞
2013	11月	PET容器では世界で初となるPET2軸延伸製品を上市
		「ワットセンスアワード」にて『アクション部門優秀賞』受賞
	3月	エフピコフェア2013「日本全国から即効アイデア盛り沢山〜知恵と工夫百選」を東京国際フォーラムで開催(来場者数13,000人)
	4月	持分法非適用関連会社の(株)石田商店(現エフピコイシダ(株))を連結子会社化 商業ビル「エフピコRIM」のネーミングライツを取得
	5月	大阪支店を大阪府大阪市に移転
	7月	九州第2配送センター稼働(佐賀県神崎市)
	10月	関西第1配送センター稼働(兵庫県神戸市)
	11月	代表取締役会長小松安弘が「旭日重光章」を受章 八王子配送センター(東京都八王子市)を着工
2014	6月	使用済みPETボトルから再生樹脂を生産する西日本ペットボトルリサイクル(株)を連結子会社化

環境・リサイクル

1990	9月	エフピコ方式のリサイクルスタート
	12月	笠岡リサイクルセンター稼働開始
1991	10月	関東リサイクルセンター稼働開始
		東北リサイクルセンター稼働開始
1992	11月	エコトレーが業界初のエコマーク認定
	3月	エコトレー販売開始
	4月	環境対策室設置
	5月	中部リサイクルセンター稼働開始
	7月	鳥取市が当社と協力して自治体で初めてトレー回収を開始
	9月	九州リサイクルセンター稼働開始
1993	10月	学校回収スタート、社内のトレー回収スタート
	2月	福山リサイクルセンター(広島県福山市)稼働開始

1996	2月	北海道リサイクルセンター(北海道石狩市)稼働開始
	8月	エフピコ物流(株)が「グリーン経営認証」取得
1998	11月	沼津リサイクルセンター(静岡県沼津市)稼働開始
	4月	関東リサイクルセンターにカラートレー自動選別機導入
1999	7月	工場見学者累計10万人突破
	4月	主力3工場(岡山県笠岡工場、広島県福山工場、福山リサイクルセンター)でISO14001認証取得
2000	5月	エコトレーが第20類で商標登録(第4387266号)
	10月	各リサイクルセンターをリサイクル工場に呼称変更
2001	11月	関東リサイクル第1工場(茨城県八千代町)稼働開始
	9月	福山リサイクル工場に透明容器リサイクル専用ライン新設
2003	2月	関東リサイクル第1工場でISO14001認証取得
	3月	岡山県にて「エコトレー」がエコ製品に認定
	4月	関東リサイクル第1、第2工場を集約 関東リサイクル工場に改称
	5月	佐賀県にて「エコトレー」が廃棄物リサイクル製品に認定
2004	6月	岐阜県にて「エコトレー」が廃棄物リサイクル製品に認定
	11月	工場見学者 累計20万人突破
2005	3月	広島県にて「エコトレー」がリサイクル製品登録制度に登録
	12月	「トレー to トレー」が第20類・第40類で商標登録(第4322974号)
2006	4月	CO ₂ マネジメント委員会設置
	5月	「エコトレー」が第40類で商標登録(第4864115号)
2007	4月	環境経営5ヵ年計画スタート
	10月	屋上緑化対応の工場稼働開始(中部第2工場)
2008	12月	太陽光発電システムを備えた本社新社屋の落成 透明容器の光学式自動素材選別装置稼働開始
	8月	茨城選別センター(茨城県八千代町)を稼働開始
2009	10月	西宮選別センター(兵庫県西宮市)、岐阜選別センター(岐阜県輪之内町)を稼働開始
	1月	福山選別センター(広島県福山市)を稼働開始 (株)金沢容器リサイクル(石川県金沢市)を稼働開始
2010	8月	佐賀選別センター(佐賀県神崎市)稼働開始
	3月	茨城県にて「エコトレー」がエコ製品に認定
2011	4月	東海選別センター(静岡県長泉町)稼働開始
	9月	九州選別センター(佐賀県神崎市)稼働開始
2012	工場見学者累計30万人突破	
	10月	山形選別センター(山形県寒河江市)稼働開始 北海道選別センター(北海道石狩市)稼働開始
2013	12月	中部リサイクル・中部PETリサイクル工場(岐阜県輪之内町)稼働開始
	4月	環境大臣より「エコファースト企業」として認定を受ける
2014	5月	中部リサイクル工場に導入したPETメカニカルプラントがFDA(米国食品医薬品局)-NOLを取得
	10月	「エコトレー」が山形県のリサイクル製品として認定
2015	12月	再生PET容器「エコAPET」が財団法人環境協会よりエコマーク商品認定を取得
	2月	「エコトレー」が北海道のリサイクル製品として認定
2016	4月	再生PET容器「エコAPET」を上市
	6月	「ボトル to トレー」が第20類・40類で商標登録(第5504851号)
2017	10月	国際通貨基金(IMF)・世銀総会にてエフピコ方式展示
	12月	「エコAPET」が第20類で商標登録(第5543674号)
2018	10月	山形県にて「エコAPET」がリサイクル製品に認定
	2月	岡山県にて「エコAPET」がエコ製品に認定
2019	3月	茨城県にて「エコAPET」がリサイクル製品に認定

編集後記

エフピコが生まれ育った福山は「ばらのまち」と呼ばれています。戦後の復興期において市民の心に潤いを与えようと、約千本のバラの苗が植えられたことがきっかけでした。現在では市内各所にバラの花壇が整備されており、毎年5月には街全体を会場として「ばら祭」が開催されます。命名権を獲得した「エフピコRiM」の周辺にもバラの花壇があり、市民の心を和ませています。

エフピコもいつかは、「福山と言えば…」という存在になるでしょうか。エフピコが製造した容器は全国で皆さまのお役に立っていると思いますが、そのルーツが福山にあるということは消費者の方々にほとんど認知されていません。しかし、いつかは福山で存在感を放つ企業となり、福山の街に咲くバラと同じように、人々の生活に潤いをもたらす企業でありたいと心から願います。



「CSR Report 2014」を最後までご覧いただきまして誠にありがとうございます。皆さまのご意見を参考に、内容の継続的な改善を図っていきたいと思っております。つきましては、当レポートに添えてありますアンケートにご協力いただきますようよろしくお願い申し上げます。

2014年6月

環境対策室 ジェネラルマネージャー

富樫 英治



CSR Report 2014

発行日：2014年6月

●制作部門・問い合わせ先

株式会社エフピコ 環境対策室

〒163-6036

東京都新宿区西新宿六丁目8番1号

新宿オークタワー（総合受付36階）

TEL 03-5325-7809

FAX 03-5325-7811

E-mail : EcoTray-FP@fpco-net.co.jp

ホームページ : <http://www.fpco.jp/>

CSR Report 2014

To be a company that links
people with people, people with nature,
and companies with society.



株式会社エフピコ

- 本社 〒721-8607 広島県福山市曙町1丁目12番15号
- 東京本社 〒163-6036 東京都新宿区西新宿6-8-1 新宿オークタワー36F
- 大阪支店 〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島3-6-32 ダイビル本館22F
- 営業所 札幌、仙台、新潟、静岡、北陸、名古屋、広島、四国、福岡

TEL (084) 953-1145
TEL (03) 5320-0717
TEL (06) 6441-2468

ホームページ <http://www.fpc.jp/>

メール EcoTray-FP@fpc-net.co.jp

